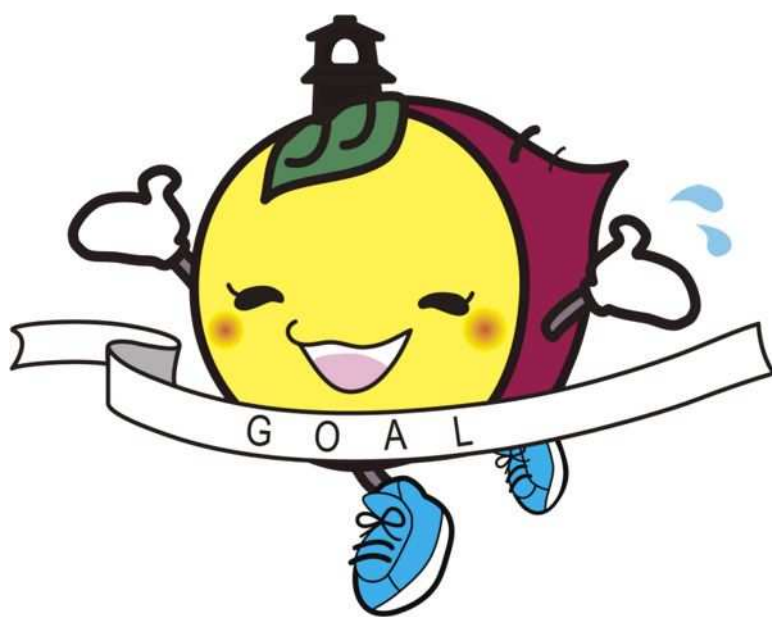


令和5年度 研究集録

川越市教育委員会委嘱学校研究
川越市教育委員会指定学校研究



川越市マスコットキャラクター ときも

川越市教育委員会

令和5年度学校研究の成果を、ここに「研究集録」として刊行することになりました。川越市教育委員会委嘱学校研究校及び指定学校研究校が、全職員の協力のもと真摯に研究に取り組まれたことに、心から敬意と謝意を表します。

近年、生産人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や環境は急速に変化しており、先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代を迎えています。このような変化の激しい社会を子どもたちが意欲的に、たくましく生き抜くためには、変化を前向きに受け止め、自身に必要な知識や能力を認識し、身に付け、それらを他者とのかかわりあいや実生活の中で活用し、実践できる主体的・能動的な力を育むことが必要です。こうした中、本市においては、「志を高くもち、自ら学び考え、行動する子ども」の育成を目指し、子ども一人ひとりの志や意欲、自己肯定感を高め、子どもたちが将来、よりよい社会や人生を自ら切り拓いていくことのできる力を育成する教育を推進しております。

各研究校におかれましては、自校の実態や課題を的確に把握した上で研究主題を設定し、「川越市小・中学生学力向上プラン」に基づく授業改善、指導方法の工夫、学習環境の整備、特別活動における話し合い活動の充実、ICTの効果的な活用等、教育活動をより深化・充実させる実践を重ねてこられました。各学校の研究成果は、学習を自ら調整しようとする姿、協働的な学習を通して学ぶ喜びを実感する姿、主体的に話し合い活動に参加する姿、子ども自身がICTを自由な発想で活用して学習に取り組む姿など、子どものよりよい変容となって表れております。特に、委嘱学校研究2年次の学校につきましては、学校の特色を生かした研究の成果を発表され、多くの示唆を与えていただきました。

各学校におかれましては、本集録にまとめられた研究内容や成果を、個々の学校の状況に応じて教育活動をより活性化するための具体的な手立てとして積極的に活用されることを期待しております。そして、「川越市小・中学生学力向上プラン」で示す「川越授業スタンダード」をより一層深化させ、「何を学ぶか」「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」という視点に基づいて、ICTを効果的に活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善を推進することで、各教科等において育成すべき資質・能力を確実に育んでいただきたいと思います。

結びに、研究に携わってこられた各学校及び地域・保護者の皆様の御尽力と、御指導いただいた関係各位に改めて感謝申し上げます。

目 次

【委嘱学校研究〈2 年次〉】

新宿小学校

- 「個別最適な学びと協働的な学びを実現する算数科授業」・・・ 1
～ICT の効果的な活用を通して～

南古谷小学校

- 「自他を尊重し合い、よりよい生活づくりに主体的に参画する児童の育成」・・・ 5
～合意形成のよさを実感することのできる学級活動の充実～

霞ヶ関南小学校

- 「児童一人一人が学ぶ喜びを実感できる授業づくり」・・・ 9
～「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習指導の工夫を通して～

霞ヶ関東小学校

- 「友達と協力し、思考力・表現力を高め合う“太陽の子”を目指して」・・・ 13
～「情報活用能力の育成」を図る ICT の活用実践～

広谷小学校

- 「集団の一員として、自ら考え、自ら活動する広谷っ子の育成」・・・ 17
～子供の思いを大切にした特別活動の実践を通して～

野田中学校

- 「学力向上＝授業改善×学級づくり」・・・ 21
～課題解決に向けた話し合い活動の充実～

寺尾中学校

- 『「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善』・・・ 25
～生徒一人ひとりの学ぶ意欲を引き出し、基礎学力の充実を図る工夫～

霞ヶ関東中学校

- 「自主的・実践的な集団活動を通して、生徒一人一人の『生きる力』の育成」・・・ 29
～積極的な話し合い活動の充実～

【委嘱学校研究〈1年次〉】

川越第一小学校

「自信をもって発信できる児童の育成」・・・・・・・・・・ 3 3
～他者との対話を通して～

川越小学校

「豊かななかかわり合いの中で、今と未来に生きる」・・・・・・・・ 3 7
～自分が好き、ひとが好き、運動が好き～

霞ヶ関西小学校

「新時代に対応し、未来を創造できる児童の育成」・・・・・・・・ 4 1
～進んで考えを伝え合い、学び合う国語科の授業づくり～

【指定学校研究】

川越西中学校・川越西小学校・霞ヶ関北小学校

「GIGA スクール環境下における
川越市小・中学生学力向上プランを用いた授業改善」・・・・ 4 5

令和5年度研究集録



川越市マスコットキャラクター ときも

研究主題

「個別最適な学びと協働的な学びを実現する算数科授業」 ～ ICT の効果的な活用を通して～

川越市立新宿小学校

研究のポイント

- 指導の個別化
- 協働的な学び
- 学習の個性化、適切な評価

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けた児童の育成
- ・自分の考えを表現し、互いの考えを比較検討できる児童の育成
- ・算数のよさに気付き、生活や学習に活用できる児童の育成

(2) 研究主題設定理由

本校では、学校教育目標「やさしく かしこく たくましく」の実現を目指し、日々教育活動に取り組んでいる。

算数科における本校の児童の課題として次のことが挙げられる。

① 授業や人間地区学力調査の結果より

- ・知識、技能の習得の個人差が大きい。
- ・読解力が低く、問題文の意味を理解することが苦手な児童がいる。
- ・自分の考えを図、言葉を使って、表現することが苦手な児童がいる。
- ・互いの考えを比較検討することが苦手な児童がいる。

② 埼玉県学力・学習状況調査の結果より

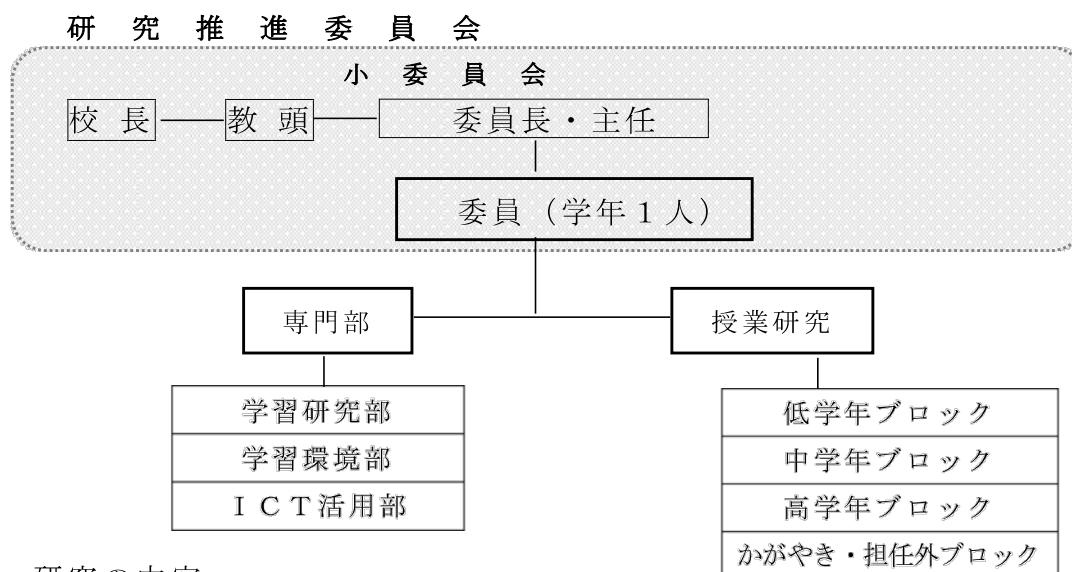
- ・資質・能力の個人差が大きい。
- ・記述式の解答率が低い。

また、社会的背景として社会の在り方が劇的に変わる「**Society5.0** 時代」が到来し、新型コロナウイルスの感染症拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」を生き抜くには、自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手になることができるようにすることが求められている。

学習指導要領で示されている資質・能力を着実に育成するためには、「どのように指導するのか」以上に「どのように学ぶのか」が重要となってくる。

そこで、本校では、算数科の学習において、ICT の新たな可能性を指導に生かし、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」を実現することを目指して、本研究主題を設定した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 研究仮説

主題をもとに、研究仮説を3つ立てた。

- 【仮説①】指導の個別化を充実させることにより、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができるであろう。
- 【仮説②】協働的な学びを工夫することにより、自分の考えを表現し、互いの考えを比較検討できる児童が育つであろう。
- 【仮説③】学習の個性化を充実させたり、学習を振り返らせ、適切な評価をしたりすることにより、算数のよさに気づき、生活や学習に活用できる児童が育つであろう。

(2) 手立て

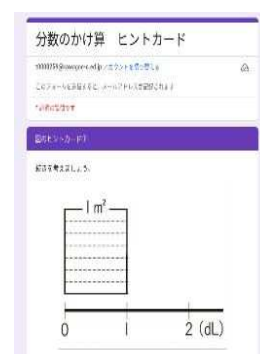
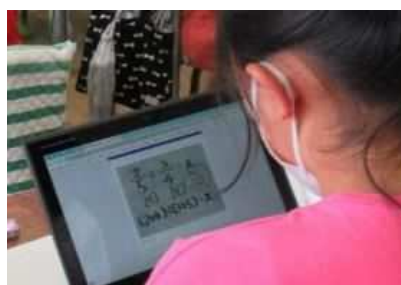
【仮説①に対する手立て】

- ・指導形態の工夫（TT、少人数指導）



- ・支援方法の工夫

（ヒントカード、ヒントコーナー）



- ・ ICT の活用



デジタルドリル



コグトレオンライン

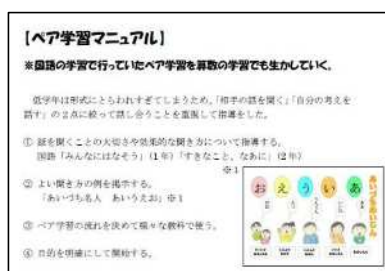
【仮説②に対する手立て】

- ・ 学び合いの仕方
(ペア学習、グループ学習)
- ・ 練り上げの仕方
(並列型、統合型、序列型)

- ・ ICT の活用 (授業の中で)



【Padlet】九九の構成について各自が Padlet 上に考えを投稿



【Flipgrid】面積の求め方について、事前に録画した動画を見ながら練り上げ

【仮説③に対する手立て】

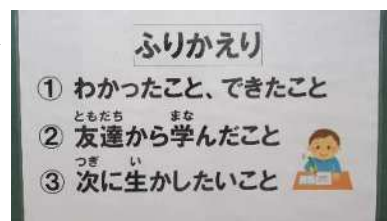
- ・ コース別学習 (興味関心別)
 - ・ 振り返り…学びのあしあと (Padlet を使った振り返り、算数の広場) の作成
 - ・ 評価基準の明確化
 - ・ ICT の活用 (デジタルドリル)
- これらの手立てから、1時間の授業の中で、児童の実態や単元に応じて重点を決め、授業を行った。

3 専門部の取組

学習研究部の取組

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業の研究をし、校内に広める。

- ・ 研究授業の実施
- ・ 指導形態や支援方法の検討
- ・ コース別学習の進め方の研究
- ・ 振り返りの視点や評価の研究
- ・ グループやペア学習の活用
- ・ 児童の変容の見取り

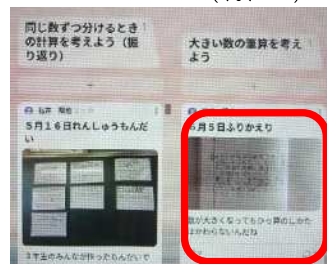


ICT 活用部の取組

自己評価等ができる効果的な振り返りを考案したり、授業のどの場面で活用したりすると効果的か検証する。

(※ 1)

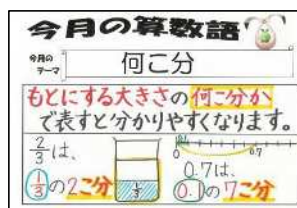
- ・ ICT 活用の推進
- ・ ICT 活用系統表の作成
- ・ 活用場面の移行（教師主体から児童主体へ）
- ・ デジタル教材の検討、活用
- ・ 「学びのあしあと」作成（※ 1）



学習環境部の取組

算数に関心をもたせたり、授業の充実を図ったりするために学習環境を整える。

- ・ 算数のための言語環境の整備（※ 1）（※ 1）（※ 2）
（算数用語、算数語の整理・共有）
- ・ 算数コーナーの設置、活用（※ 2）
- ・ 算数教具の整理、活用
- ・ 全体構想図、研究授業の掲示



4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 指導形態、支援方法の工夫によって、指導の個別化の充実を図ることができた。学校全体として単元末テストや入間地区学力調査の平均点は高い数値を示し、個別に見ると、知識・技能の習得率が著しく上がった児童もいた。
- ② 協働的な学びの工夫によって、自分の考えを表現できる児童が増えた。また、ICTを活用しながら、友達と意見を比較検討している様子が見られた。児童アンケートでは、約 87% の児童が「友達の考えと比べることで、自分の考えが深まる」と回答した。
- ③ 学習の個性化を意識した単元計画を立てることによって、児童が意欲的に学習に取り組んでいる姿が見られた。児童アンケートでは、約 95% の児童が「算数の学習は普段の生活に役立つ」と回答した。

(2) 課題

- ① コース別学習の内容検討が十分にできなかった単元もあるので、来年度は形態だけでなく、指導の内容について検討していきたい。
- ② 国語科の取組を算数科で生かしたように、学び合いの仕方や ICT の効果的な活用などを他教科・他領域にも広げていきたい。
- ③ 評価規準や評価方法について、教員間で共通理解が図れるように、話し合いの時間を引き続き確保したい。

研究主題

「自他を尊重し合い、よりよい生活づくりに主体的に参画する児童の育成」

～合意形成のよさを実感することのできる学級活動の充実～

川越市立南古谷小学校

研究のポイント

- 学級活動（１）を中心として、本校の目指す児童像の達成を図る
- 学級活動（１）で培った資質・能力を他教科や活動などに生かせるようにする

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

学級活動（１）を軸として本校の主題である「自他を尊重し合い」「よりよい生活づくり」「主体的に参画」のキーワードを元に、本校の目指す児童像に迫りたい。

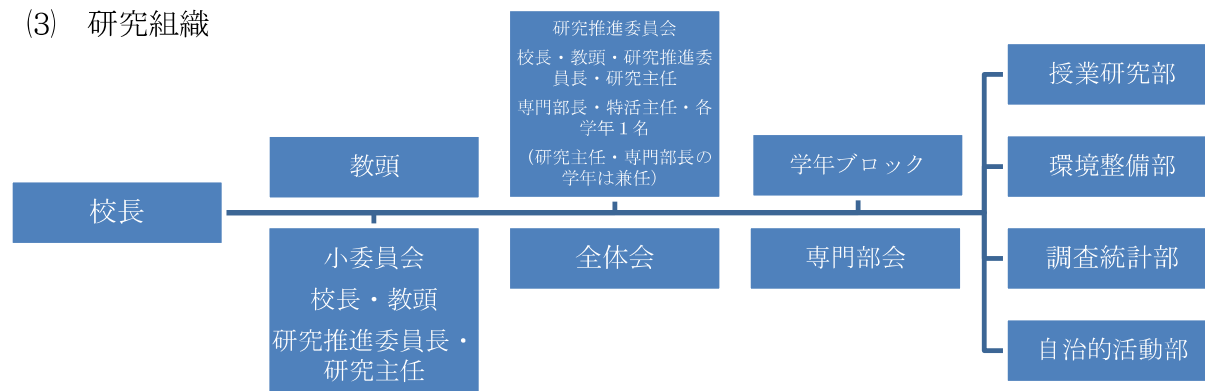
- ① 「自他を尊重し合い」とは、対話をしながら相手を思いやったり、考えを受け入れたりすることと捉えている。相手を認め合い、よりよい考えを広げていける児童を育成したい。
- ② 「よりよい生活づくり」とは、自分や学級、学校の諸問題について気づき、改善していくことと捉えている。自ら課題に気付くことで、話し合う意義を明確にもったり、自分がどうありたいかを見つめ直したりすることができる。実践後に振り返ることで、学校生活に生かすことができる児童を育成したい。
- ③ 「主体的に参画」とは、児童が明確な課題意識をもち、どのような行動をすれば解決できるかを考え自分から進んで様々なことに参加しようとするものと捉えている。そのような行動が、特別活動のみならず、普段の生活にも波及していくことで、よりよい学級・学校を作り上げていこうとする児童を育成したい。

(2) 研究主題設定理由

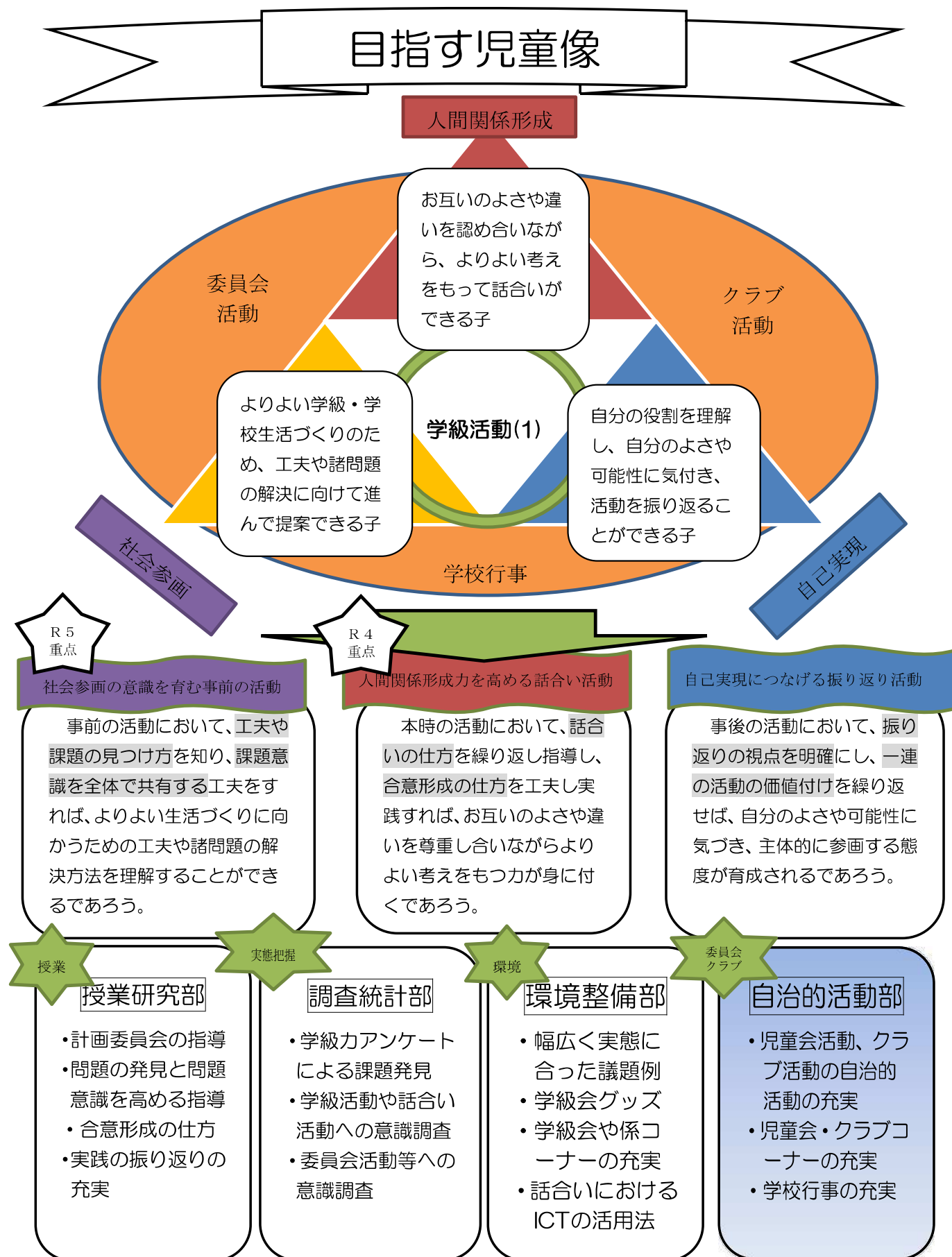
令和元年度末の職員アンケートから、生徒指導上の問題が多く、学級経営についての充実を図りたいという回答が見られた。その中で、児童に「対話する力をつけてほしい」「相手を思いやってほしい」「自分から進んで動いてほしい」「他者との関わりを深めたい」「自己有用感を高めたい」「学習規律を徹底したい」などが教師の願いとして挙げられた。

小学校学習指導要領においても「日ごろから学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること」と示されている。この学級経営の充実において、学級の雰囲気や人間関係が、児童の人間形成に与える影響はとても大きい。そこで学級活動（１）を通して、学級経営の充実を図り、教師の願いを実現することとした。

(3) 研究組織



2 研究の内容



3 実践事例

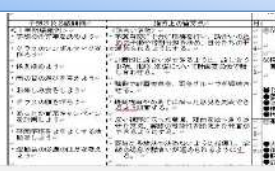
【高学年ブロックの実践】

議題：学年集会を開こう

話合いのめあて：学年としてまとまりが深まる集会にしよう。

事前の手立て

年間指導計画の作成



高学年の実態に合わせて、1年間を見通した年間指導計画を作成した。

提案理由の練り上げ



練り上げでは、クラスでの様子、解決方法、解決後を考えることで提案理由が明確になり、課題意識を共有できた。

本時の手立て

提案理由の掲示の工夫



提案者がスライドを用いて発表し、議題を自分事として捉えられるようにした。

短冊の活用



意見の理由を色分けして掲示し、理由をもとに全員が納得して決定できるようにした。

事後の手立て

学級のあゆみ

学級活動や学校行事などの実践の様子や感想を掲示することで、自分たちの実践活動に自信や達成感を持ち、活動を価値付けられた。

実践に合った振り返りカードの作成

決まったことに対して、全員で取り組み振り返りを行うことで、クラスの一員として自己有用感を高められるようにした。

【中学年ブロックの実践】

議題：友達の考えを生かせることを考えよう

話合いのめあて：自分でつたえられることを考えよう。

事前の手立て

事前アンケート



他者の意見を尊重するための指導



選定した意見の周知



各クラスの児童が、自分たちのなりたい姿と比べて、どんなところを課題と捉えているか把握するために活用できた。

他者を尊重する意見の言い方を事前に指導し、実践させることで、児童が自分のよさや他者との違いに気付くと考えられる。また、他教科でも同じ取組をしていて、児童同士がよりよい人間関係を構築していけるようにする。

話し合うこと1で出た案を短冊に予め書いておき、学級会の前に背面黒板に掲示しておくことで児童が自分の考えを整理する時間ができると考えられ、課題意識も高まると考えられる。

本時の手立て

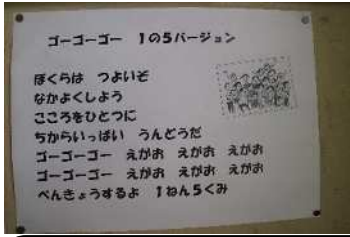
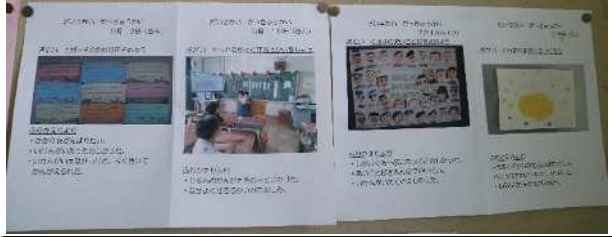
黒板記録への支援

児童の意見（理由）を教師が要約し、黒板記録がスムーズに書けるように支援する。赤短冊を見ることで、どこにどの理由で賛成が出たのかをクラス全体が共有できるようにする。



短冊の活用

赤短冊を利用することで、まとめる際には、自分の意見だけでなく友達の意見とも合わせて決定できるように支援する。クラスがよりよくなるためにどうしたらよいかを決められそうかを可視化できるようにし、全員が納得して決定していく話合いの過程として板書に残るようにする。

事後の手立て	学級のあゆみ 学級活動や学校行事などの実践の様子や感想を掲示することで、自分たちの実践活動に自信や達成感をもち、活動を価値付けられた。  振り返りカード 今回の活動のよかった点や課題を記入するカードを作成し、自らの実践活動を振り返ることで児童自身が自己評価を適切に行い、次の活動に活かすことができた。
【低学年ブロックの実践】 議題：クラスのうたをつくろう 話合いのめあて：歌うと楽しい気持ちになる歌を作ろう。	
事前の手立て	最終目標のイメージ化 昨年度の1年生がクラスの歌を歌っている動画や「クラスの歌を作ったか」等のインタビュー動画を事前に見せ、クラスの歌のイメージを共有した。 司会グループへの指導 司会者用の台詞スライドを用意し、司会進行が円滑に行えるようにした。事前指導において、クロームブックの操作方法なども練習した。
本時の手立て	司会者用「おたすけカード」の活用 司会者用おたすけカードを作成し、進行カードのほかに、賛成・反対意見に対しての返し方や、意見のまとめ方について支援するカードを用意した。 
事後の手立て	歌詞の掲示  話合いで決まった歌詞を掲示しておき、いつでも見られようにした。掲示物が目に入ることでクラスの歌を身近に感じられるようにした。 学級会のあゆみの掲示  決まったことを学級会コーナーに掲示した。これまでの自分たちの活動を振り返り、次の課題発見にも活用できるようにした。また、「振り返り」を書くことで、前回の反省を生かしながら話し合わせることができた。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 環境整備や教師の支援の工夫により、積極的に学級会に参加したり、主体的に事後活動に取り組んだりする児童が多く見られるようになった。
- 児童に、自分の考えを伝える力や、自分とは異なる意見を大切にしながら折り合いをつける力を、身に付けさせることができた。
- 教師が本気で話し合うための事前の手立てを工夫したことで、児童が自分事として議題について話し合えるようになった。

(2) 課題

- 計画委員の指導や学級会までの事前活動を、より効率的・効果的に行うための手立てについて研究を深める。
- 学級活動の中で、個に応じた支援の仕方や評価方法について今後の課題である。

「児童一人一人が学ぶ喜びを実感できる授業づくり」

～「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習指導の工夫を通して～

川越市立霞ヶ関南小学校

— 研究のポイント —

- 単元ごとに育成する資質・能力を「言葉の力」で明確化
- 思考ツールの段階的・系統的な活用と螺旋的・反復的な学習の定着
- 単元計画表の活用から1単位時間を「めあて（課題）」「見通し」「解決（学び合い）」「まとめ」「振り返り」と課題解決的な学習スタイルの構成
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

- ① 国語科の学習や言語活動に関する児童の実態調査を行い、指導上の課題について明らかにする。
- ② 指導事項等を基に、目的に応じて読む能力を設定する順序及びその内容について明らかにする。
- ③ 目的に応じて読む能力の育成に適した単元を貫く言語活動の内容や、指導過程への位置付け方について明らかにする。
- ④ 子どもの主体性を高める思考ツールの活用を通して、文章における自分の考えを形成する力を高める学習過程を明らかにする。
- ⑤ 検証授業の分析を基に、研究の成果と課題について明らかにする。

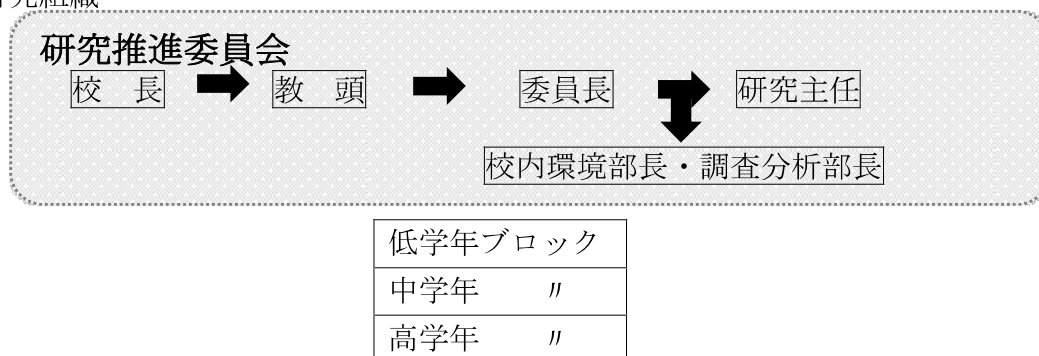
(2) 研究主題設定理由

本校の児童は、平素の授業において、国語で正確に理解し適切に表現するために必要な知識及び技能の習得に向けた学習には、前向きに取り組むことができる児童が多い。しかしながら、基礎的・基本的な知識及び技能は習得できていても、既習内容と関連付けて考えたり、様々な情報や知識を駆使しながら新しい考えを練り上げたりする児童は少ない。また、教師自身も授業改善の必要性を強く感じるようになっていった。そこで、児童が国語科として育成を目指す資質・能力をよりよく身に付け、一人一人が国語を学ぶことのよさを実感できるようにするために「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいて国語科の学習指導の在り方を学校全体で見直すこととした。

国語科を先導教科として授業改善を進めることにより、学校における言語環境が整備され、全ての教科等における学習の基盤となる資質・能力である言語能力が向上することが大きく期待される。さらには、各教科等における言語活動の充実や、児童の学習意欲や学力の向上にもつながるものと考えられる。

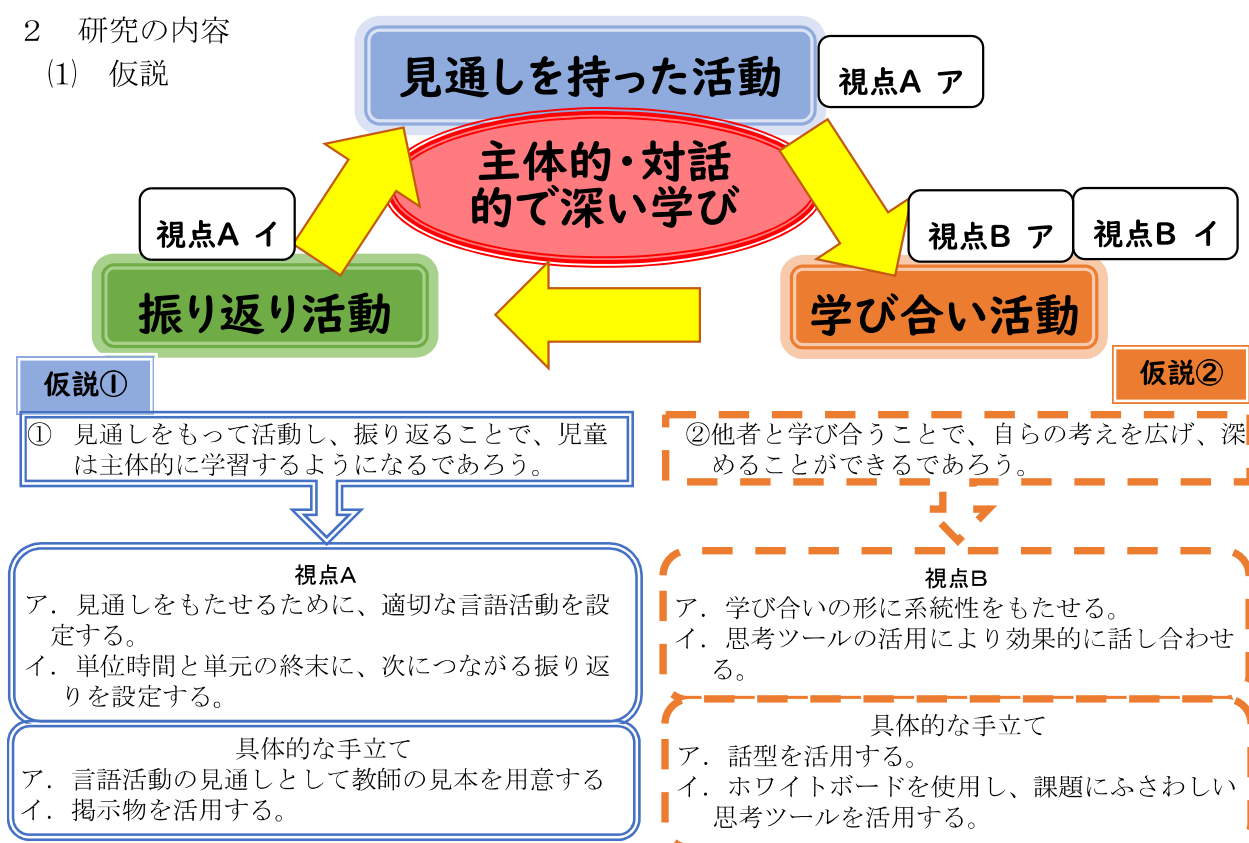
以上のことから、本校においては、「児童一人一人が学ぶ喜びを実感できる授業づくり～『主体的・対話的で深い学び』を実現する学習指導の工夫を通して～」を研究主題として設定し、国語科における授業改善のための研究を行うこととした。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 仮説



(2) 目指す児童像

ブロック	観点	目指す児童像
低学年	主体的	振り返りで、学習内容を確認できる。
	協働的	思考ツールを使える。
中学年	主体的	振り返りで、一般化できる。
	協働的	課題に合った適切な思考ツールを選べる。
高学年	主体的	振り返りで、自分の変容を自覚できる。
	協働的	課題に合った適切な思考ツールを創造することができる。

3 実践事例

(1) 指導過程の工夫

川越市小・中学生学力向上プランを基本とした本校の学習スタイルで取り組み、学び方の系統性を作ることにより、児童に学習の見通しと授業に対する安心感をもたせた。学校で統一した学習スタイルを行うことで、学年・学級のギャップを少なくした。授業の流れが児童に明確に伝わるように指導過程用のカードを掲示した。そして、授業の順序だけでなく、話し合いの進め方等も合わせて共通理解を図った。授業の前半で行った「見通し」と終末で行う「振り返り」により、児童に達成感、満足感をもたせたいと考えた。見通した学習内容を学び合うことにより、深まり、広がりを実感させ、次時への学習意欲を高めたり、自尊感情や自己有用感を高めたりできると考えた。



① 「学び合い」の充実

「学び合い」にペア、グループ学習を取り入れることにより、児童の説明する機会を多く設けた。思考ツールを使用するなどして聞き方や話し合いの進め方が身に付くことにより、学び合いが活性化すると考えた。話型や聞く態度についても指導を加えた。



② 発問

話し合いが単なる発表で終わることなく、思考の深まりが見られるようにするために思考を促す発問や焦点化する発問を通してより深い読み取りができると考えた。

③ 「振り返り」の工夫

「振り返り」では、当初、ノートに記述式で振り返りを書くようにしていたが、単元全体が見通せないことや各自のノートを一つ一つ点検する大変さから、発達段階に応じた振り返り用紙を作成し、学習の達成状況も記入させるようにした。これにより児童の学びを短時間に見取ることができるだけでなく、児童が単元を通して自分の学びを客観的に評価できるようになった。また、自力解決や話し合い後に参考になった友だちの考えを書き留めさせることで自分と友だちの考えの違いに気付いたり、比べて読んだりすることができた。

(2) メタ認知を高める「振り返り」

メタ認知とは自分の認知をより高い次元から客観的に見取り、冷静に評価した上で、それを具体的に制御する能力を意味する。児童が「振り返り」に自分の考えを書くためには、授業の中でより深く考える場面をつくることを大切にしたい。「学び合い」の中で児童自らがよいと思う考えややってみたいと思う考えを自己決定させるなどの工夫により、自らの考えを少しずつ変えていったことを「振り返り」に書くことができた。

＊児童にとっての「振り返り」のメリットとして、それが自己の学びや考えを整理するよい機会になった。また、振り返った内容を蓄積しておくことにより自己の学びの軌跡が一目でわかるようになった。これを自己評価することで自信にもつながった。友だち同士による相互評価にも役立てることができた。

＊教師にとってのメリットとして、児童の日々のがんばりを「評価」に活かせること

である。児童の「振り返り」から児童に合った学習支援ができた。また「授業の内容が児童に伝わっているかどうか」もある程度把握できる。うまく伝わっていないと分かれば、次時の授業で再度説明したり、授業計画自体を修正したりといった手立てを打つことができた。

(3) 思考ツールの活用

思考ツールの活用は「的確に読む」という点においても成果が見られ、読む目的を明確にし、読み取った情報をつながけながら文章を読解できた。その結果、児童は広い情報の中から解釈をすることができた。また、学習の中で、発達段階に即した思考ツールを教師が設定した。国語科における課題解決も同様で、思考する場面、判断する場面、表現する場面など、課題に合わせて、児童が課題解決のステップを考え、それに適した方法を選択し、ゴールまでたどり着くことができるように設定した。高学年においてはこれまで身に付けた知識や能力の中から活かせる思考ツールを選び、課題解決をしていく中で、能力を伸ばしたり、新しい方法を見付けたりすることができるようにした。思考ツールを活用する経験を積み重ねることで、国語における課題解決の方法や思考・判断・表現の能力を向上させ、より確かなゴールへとたどり着くことができる児童の育成を目指した。



4 研究の成果と課題

【成果】

- 児童同士の対話的な活動の前に、児童が自分の体験や既習の内容と結びつけて自分の考えを形成する時間を確保した。そのことで、児童が互いの意見を様々な視点から検討して共通点や相違点等を整理したり、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。
- 教師が意見の構成方法について示したことにより、児童は考えをもってペア・グループでの話し合いに臨むことができた。また、話し合いにおいては、多様な意見を共有し、自分の考えを深める様子が見られた。
- 思考ツールを用いることで、自分や友だちの考えを可視化したり整理したりすることができた。そのことで、児童にとって新たな気づきが生まれたり、思考が深まったりする様子が見られた。
- ペア・グループ学習における対話では、教科書の叙述やそれに対する自分の考え等を根拠として話し合いを行うよう継続的に指導したことで、目的に沿った話し合いができるようになった。
- 対話を重視した授業や探究型の授業を通して、授業の終わりに児童が意識した「振り返り」が位置付けられた。

【課題】

- 今後は、国語以外の教科等においても思考ツールをよりよく活用し、児童の書く力、話す力、対話する力を身に付けさせていくための学習の積み重ねが必要である。
- 成果を今後も引き続き活かし、さらなる改善へとつなげるために、学校全体で共有、実践、評価し、改善を進めるサイクルを確立し、学力を向上させたい。

「友達と協力し、思考力・表現力を高め合う“太陽の子”を目指して」 ～「情報活用能力の育成」を図る ICT の活用実践～

川越市立霞ヶ関東小学校

研究のポイント

- 話し合う場面において、意見を比較したり取り入れたりすることによって、思考力を高め合えるだろう。
- 課題を解決するために、場面に適したツールを用いることによって、思考が整理され、よりよく表現することができるようになるだろう。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

- 主体的に学習に取り組むことで自分の考えをもち、他者と協働することで、より深く思考する児童の育成。
- 自分の考えを更に分かりやすく伝えられる児童の育成。

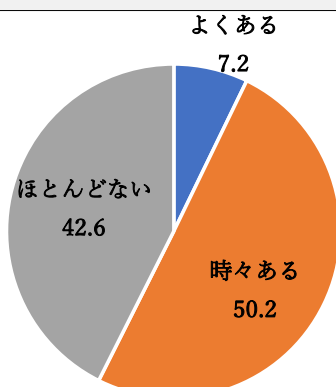
(2) 主題設定の理由

本校では目指す学校像「児童一人一人のよさを活かし、その子その子の花を咲かせる霞東小」に基づき、具体的目指す児童像として「自分の考えや思いを相手に分かりやすく発信できる子」「友達との協働的・対話的な学習により高め合いができる子」の育成を掲げている。

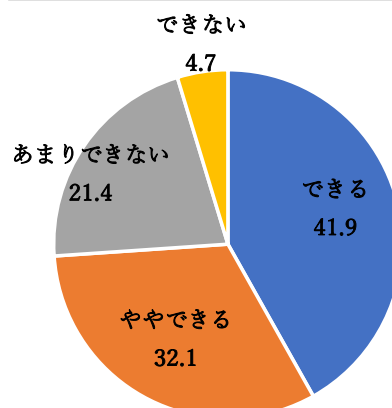
本校の児童に研究当初アンケートを実施したところ、「考えても、自分の考えが浮かばないことがありますか。」という設問に対し、「よくある」

「時々ある」と回答した児童は、57.4%であった。また、「クラスの友達の前で、自分の意見を発表することができますか。」という設問に対し、「できない」「あまりできない」と回答した児童が26.1%であった。以上の結果から、本校の児童には、他者との意見を比較したり、取り入れたりする活動を設定することで思考力を高められると考察した。また、意見を発表することができない児童は、ICT 機器を活用した思考ツールを用いることで、自分の考えを整理し、表現しやすくなると考察した。

① 考えても、自分の考えが
浮かばないことがありますか。



② クラスの友達の前で、意見を
発表することができますか。



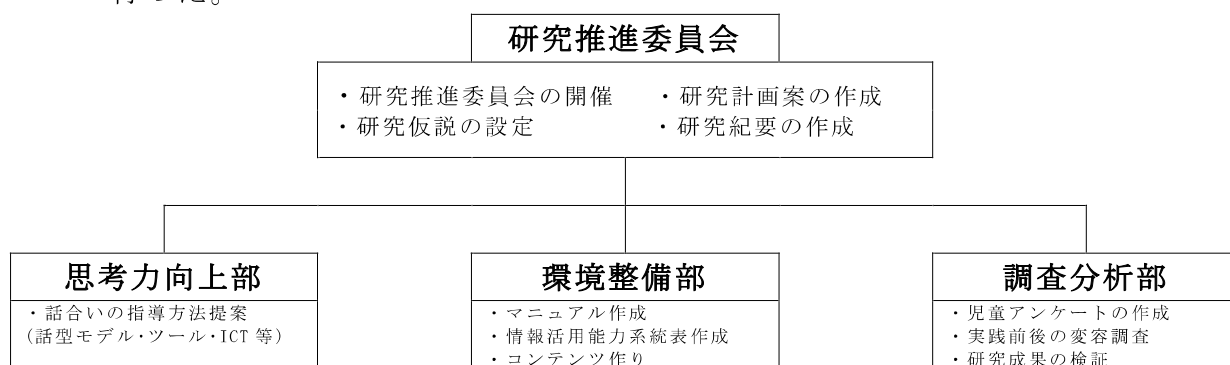
また、この4年間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、児童同士の話し合いや伝え合いに制限がかかった。しかし、前述した本校児童の実態から、このような環境下においても、主体的に学習に取り組むことで自分の考えをもち、他者と協働することでより深く思考する児童、他者に自分の考えを伝えることのできる児童を育成していきたいと考えている。そのような教師の強い思いと、GIGAスクール構想時代を鑑み、ICT機器を有効活用することで具体の目指す児童像に迫ることができると考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究組織

本校では「研究推進委員会」と「思考力向上部」「環境整備部」「調査分析部」の3つの部で構成した。

「研究推進委員会」では、研究計画の立案、研究仮説の設定等を行った。

- ① 「思考力向上部」では、仮説に対する手立ての検討、話し合いマニュアルや教師の言葉がけマニュアルの内容検討を行った。
- ② 「環境整備部」では、マニュアルや本校の情報活用能力育成系統表の作成に取り組んだ。
- ③ 「調査分析部」では、研究前後のアンケート調査や、研究成果の検証を行った。



2 研究の内容

(1) 思考力に関する仮説

「話し合う場面において、意見を比較したり取り入れたりすることによって、思考力を高め合えるだろう。」

① 「話し合いマニュアル」

司会を立て、全員が意見を発表する話し合いの型を作成した。

② 「思考ツールの活用」

主に自分の意見やグループで集めた意見を整理したり比較したりする場面で活用した。

(2) 表現力に関する仮説

「課題を解決するために、場面に適したツールを用いることによって、思考が整理され、よりよく表現することができるようになるだろう」

① 「思考の可視化」

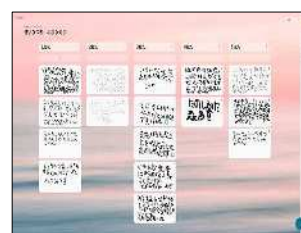
自分や友達の考えを学習者用コンピュータ上のアプリや、紙のワークシートに記入し可視化させることで、思考を整理し、よりよい表現につなげていけると考えた。

② 「教師の言葉がけマニュアル」

児童の発言に対しての切り返しや、発問の仕方などを工夫することが重要だと考える。そこで本校の教師なら、誰でも児童に効果的な言葉がけができるよう、マニュアルを作成し、授業で活用した。

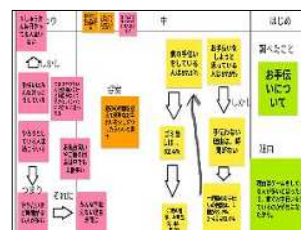
3 実践事例

- (1) 令和6年1月26日(水)5校時 1年1組 齊藤 歩 教諭
生活「もう すぐ 2ねんせい」



本実践は、児童が主体となって来年度入学する新しい1年生との交流会を計画・運営することを通して、新しい1年生への思いを馳せながら自分を思い出し、自分たちにできることを考え、思いを伝えていき、それらの準備や活動を振り返る中で、自己の成長を実感することにつなげることができた。

- (2) 令和6年1月26日(水)5校時 4年1組 山口 俊苗 教諭
国語「調べたことをほうこくしよう」



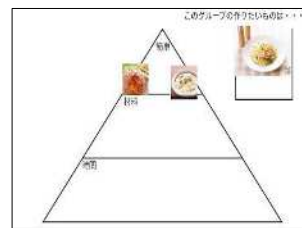
本実践では、生活実態に関するアンケート調査の結果について分かったことをまとめ、自作した資料を用いて報告し合うという言語活動を設定し、意欲的に取り組めるようにした。アンケートは相手意識をもち、生活をよりよくしていくという目的意識をもってグループで内容をよく考え作成させることで、目的に応じて表現の工夫をする資質・能力を育成することができた。

- (3) 令和6年1月26日(水)5校時 5年1組 齋藤 萌子 教諭
国語「和の文化について調べよう」



本実践では、和の文化について調べる活動を通して、複数の資料を比較して、伝えたい内容や目的に合わせて必要な情報を選択できるようにした。また、調べたことを報告するパンフレットを作成する活動を通して、調べる観点と内容に応じて集めた情報を関係付けて文章にまとめる力を身に付けさせることができた。

- (4) 令和6年2月15日(木)5校時 ひまわり1組 小島 拓也 教諭
教科別の指導 国語「白菜について話し合おう」



本実践では、2学期に栽培を始めた白菜の葉が虫に食べられたり、水やりなどの世話をし大きく育ったりしていく様子を観察していく中で、大きく育った白菜を調理してみたいという児童の発言から設定した。児童は、調理実習などの活動の中で、自分たちで作りたいものをインターネットで調べ、話し合う活動を積み重ねてきた。友達とどんなものを作るか話し合うことで、話し合いながら決めることのよさを実感できることができた。

4 研究の成果と課題

【成果】

- 学習者用コンピュータのツールを有効活用しながら学習を進める力が伸びた。
- 「話し合いマニュアル」を活用することで、どの児童も自信をもって話し合いを進めることができた。
- 課題解決のために、話し合って意見を比較したり、適したツールを用いて思考を可視化し整理したりすることで、自分の考えを自信をもって伝えられるようになった。

【課題】

- ▲「自分にはない考えを取り入れたことで、自分の考えがよりよくなった」「思考ツールを使うことで考えがよりよくなった」と感じられていない児童が存在する。さらなる個に応じた効果的な支援が必要である。
- ▲思考ツールの活用については、学習内容に適したより効果的なツールを児童に示せるよう教師のICT活用指導力を向上させることが課題である。

研究主題

「集団の一員として、自ら考え、自ら活動する広谷っ子の育成」 ～子供の思いを大切にしたい特別活動の実践を通して～

川越市立広谷小学校

研究のポイント

- 子供の思いを大切にしたい学級活動（１）の実践
 - ・理由に着目した合意形成
 - ・学級会グッズ等の工夫による環境づくり
- 学級活動を中心に特別活動全体を通して、児童の自主的な態度の育成

1 研究の概要

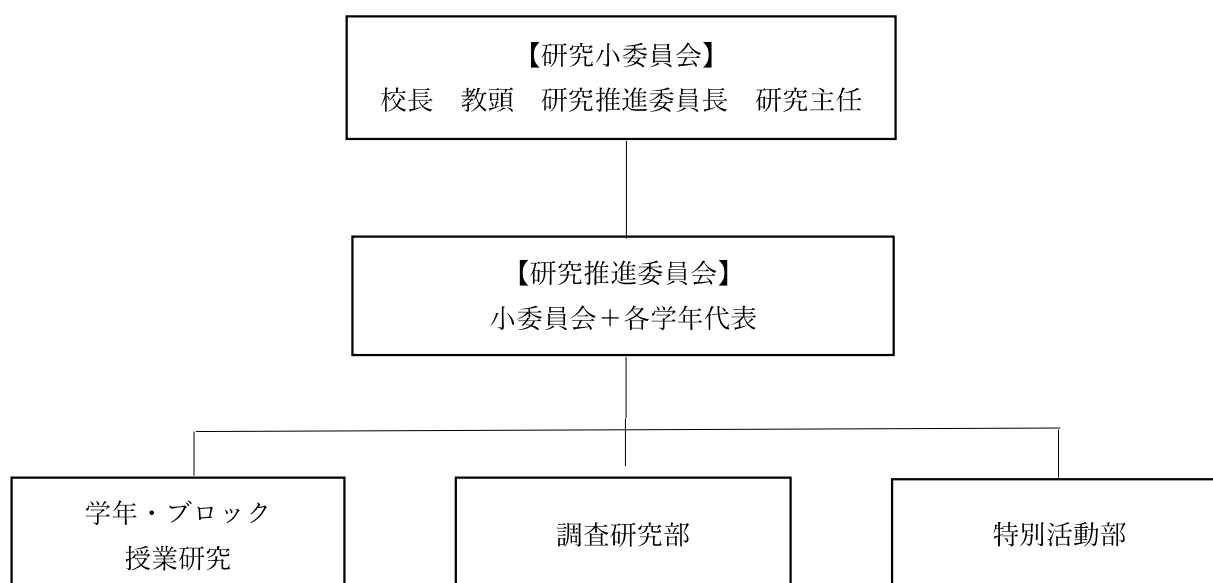
(1) 研究のねらい

本校は、令和４年度より２年間川越市教育委員会、令和５年度より入間地区特別活動研究会の委嘱を受け、学級活動（１）の授業実践を中心に特別活動の研究を進めてきた。「学級会を中心とした特別活動全般における指導力向上」をねらいとし、児童が自主的に活動する力の育成を目指して、各学年、ブロック、専門部で手立てを検討し、研究に取り組んだ。

(2) 研究主題設定理由

本校の児童は、真面目な子が多く、教師から言われたことを一生懸命に取り組む姿が見られる。その反面、自ら考えて行動することが苦手だったり、自信をもって行動できなかったりする姿も多く見られる。そこで、児童には、学年・学級等、「児童が所属する集団」をよりよいものにするために学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事などの集団活動を通して、集団や社会の形成者としての見方・考え方を身に付けさせたいと考えた。よりよい人間関係を形成する力の育成と共に、児童自らが進んで意欲的に活動する態度の育成を目指して設定した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 目指す児童像

- ① 自分たちの問題として捉え、意欲的に活動する子
- ② 互いの考えの「よさ」を生かし、集団がよりよくなるために活動する子
- ③ 集団で活動するよさや価値を感じ、支え合って主体的に活動する子

(2) 目指す児童像に迫る学級活動（１）の授業研究

（研究仮説）

- ① 課題意識を高める指導を充実すれば、意欲的に活動する力が育つであろう。
- ② 互いの意見を認め合い、折り合いをつけて話し合える指導を工夫すれば、集団がよりよくなるために活動する力が育つであろう。
- ③ よい経験を積み重ね、満足感・達成感を味わえる評価の工夫をすれば、支え合って主体的に活動する力が育つであろう。

(3) 目指す児童像に迫る特別活動全体を通した指導の工夫

3 実践事例

(1) 学級活動（１）の授業実践

【低学年ブロック】

〈ブロックで取り組んだ指導の重点〉

- ・めあてに基づいた意見や考えを発表できるように指導する。

〈成果〉

- めあてにあるキーワード（例：「なかよく」や「きょうりよく」）を、イラスト化し、吹き出しにして言葉をつけ加えたことは、めあてを具体的に意識するために有効であった。
- 柱②を広い範囲での工夫（お店を楽しくする工夫など）にすると多様な意見が出てまとまらないため、工夫する場面を限定（お店を離れる時の笑顔になる工夫など）することで、話し合いがそれることなく進めることができた。

〈課題〉

- 出ている意見の特性に目を向けた「比べ合い」はまだできていないので、教師が切り返しの質問をしながら、特性に着目できるようにしていく。
- 発言できる児童が増えてきたが、発言が難しい児童もいるので、発言しやすい環境づくりや、問題を自分事として捉えられるようにするための事前準備や指導の工夫が必要である。



【中学年ブロック】

〈ブロックで取り組んだ指導の重点〉

- ・理由に着目して、比べられるよう指導する。

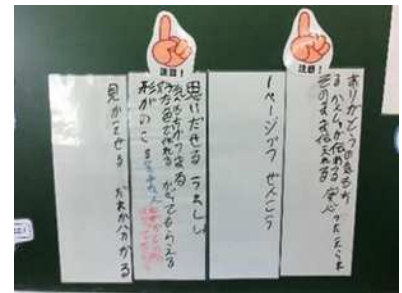
〈成果〉

- 理由を意識した発言が多く、提案理由や先生から提示されたキーワードを意識することができた。

- 注目マークを活用することで、より理由に着目して決定することができた。
- 会のイメージ等、事前に共通理解を図ったことで、話し合いがスムーズに進むとともに、具体的な意見を出し合い決定していくことができた。
- 児童が迷っている時、教師の助言により「めあて」に沿った話し合いに戻ることができた。

〈課題〉

- 賛成意見が多いものに流れやすいので、より理由に着目した話し合いができるように板書や助言の工夫をしていく。
- 工夫を話し合う場面では、工夫する場面を焦点化して、話し合いを深めていきたい。
- 取り上げられなかったものに関しては、他の場面等で活かせるように指導していく。



【高学年ブロック】

〈ブロックで取り組んだ指導の重点〉

- ・理由の相違点や共通点に着目して、話し合いを深められるように指導する。

〈成果〉

- 学級会ノートを机にしまって話し合いに参加させることで、自分の書いた意見に固執せず、出された意見のよさや違いに注目して話し合えるようになった。
- 提案理由や話し合いのめあてに沿った意見を考え、理由の相違点や共通点に注目して比較したり、まとめにつなげたりすることができた。
- まとめの場面で、意見のよさを決定の根拠とするような進行ができるようになった。

〈課題〉

- 意見のどこが提案理由に沿っているのか、具体的な例を挙げて理由を言えるように事前指導をさらに工夫していく。
- それぞれの意見の特性を捉えて比較検討できるように、板書の活用の仕方を工夫していく。



【特別支援学級】

〈特別支援学級で取り組んだ指導の重点〉

- ・生活単元学習の中で話し合いを繰り返し行うことで、問題を自分事として捉えられるように指導する。

〈成果〉

- 話し合いの回数を重ねることで、折り合いをつける場面が見られ、問題を自分事として捉えようとする意識が高まっていた。
- 個々への指導助言を丁寧にするすることで、こだわりの強い児童も納得しながら話し合いに参加することができた。
- 出された意見をその場で行い共通理解したことで、遊びについてのイメージが沸き、そこから賛成意見や反対意見につながっていった。

〈課題〉

- 意見を出し合う時間を長くとるために、話し合いの約束を様々な学習場面で身に付けさせる。
- 意見を言えないときのために、事前に動画を撮影して準備する等、より個に応じた支援をしていく。
- こだわりの強い児童が納得できるような発言を児童たちから引き出す支援をしていく。

(2) 特別活動部の実践

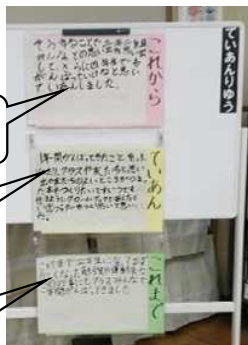
提案理由の書き方の工夫

従来の提案理由に「これから」という項目を追加。話し合いの着地点のイメージをつかみやすくした。「話し合いのめあて」ともリンクし、話し合いの視点が明確になった。

「こうしたい」「こうなりたい」
(解決後のイメージ)を書く。

「こうすることで」(解決方法)を書く。

「今こうなっている」(現状)や
解決したいことを書く。



自主的にクラブ・委員会を進める工夫

① 振り返りカードの更新

個人でも活動記録を残したり、めあてを振り返ったりできるようにした。

② 進行例のシナリオ作成

部長・副部長・記録など役割ごとに活動を分担できるように分担例を示し、どの役割も活躍できるようにした。

③ クラブや委員会までの流れの作成

計画的に活動ができるように、クラブや委員会までの準備の目安を作成した。

4 研究の成果と課題

〈成果〉

- めあてや提案理由にあるキーワードを提示したり、意見の理由を板書に残したりすることで、理由に着目した合意形成をすることができるようになり、事後の活動にも積極的に取り組む姿が増えた。
- 学級活動を充実することで、児童会活動・クラブ活動・行事等で自ら活動する児童が多く見られるようになった。

〈課題〉

- よりよく決める合意形成を積み重ねて、さらに個々の意見のよさを活かす話し合いができるようにしていく。
- 事前指導から振り返りまでの一連の活動を充実させ、児童の思いを大切にしたい特別活動の取組をさらに広げていく。

「学力向上＝授業改善×学級づくり」

～課題解決に向けた話し合い活動の充実～

川越市立野田中学校

研究のポイント

- 話し合い活動を通じた望ましい学級集団を形成する。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。

1 研究の概要

(1) 研究主題設定理由

本校の生徒は素直で明るく、日常の中で友人との交友関係も良好に築くことができる生徒が多い。その反面、学習場面において、学んだことを進んで交流し発表することに自信がもてない生徒もいる。

学力の向上には、生徒の自主的、実践的な態度を育て、授業における学び合いや探究し合う活動を推進していくことが有効な手段であること、また、その土台となる学級づくりのためには、学級活動における生徒の自発的、自治的な活動を中心として、学級経営を充実させることが重要であることから、本研究主題を設定することとした。

(2) 研究のねらい

学級活動を基盤とした学びに向かう集団づくり、各教科等で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の実施に向けて、2つのねらいを設定した。

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践的な授業改善の実施により、学力向上を図る。

ア 年度の初めや機をとらえて定期的に「川越授業スタンダード」についての研修を実施すること

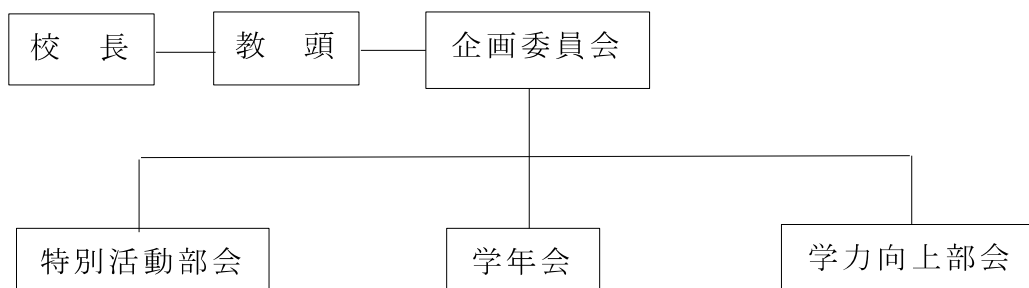
イ 日々の授業実践の中で授業スタンダードを意識した授業改善を行うこと

- ② 学級活動の中の話し合い活動を充実させることにより、安心して学び合える、互いに高め合える学級づくりを推進する。

ア 学級活動についての研修を充実させること

イ 学級活動（1）における話し合い活動の実践を積み重ねること

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 校内研修の充実

- ① 授業改善に係る校内研修
- ② 学級活動（１）に係る校内研修
- (2) 日々の授業の中で行う授業改善
- (3) 学級活動（１）に係る授業研究会の実施

3 実践事例

(1) 授業改善に係る校内研修

- ① 令和５年４月２７日（木）
『川越授業スタンダード』について

- ② 令和５年８月２１日（月）
今後の学力向上に向けた取組等について
指導者：川越市立教育センター 大池芳明指導主事

(2) 学級活動（１）に係る校内研修

- ① 令和５年６月１日（木）
委嘱学校研究２年次の内容に特化した今後の学力向上について
- ② 令和５年７月２４日（月）
「学級活動について」
ア 学習指導要領等による基本事項の確認
イ 県の映像資料による学級活動（１）の視聴
ウ 学級会セットを活用した実践的な研修



【県の映像資料活用場面】



【学級会セット活用研修】



【学級会セット】

(3) 日々の授業の中で行う授業改善

- ① 「授業スタンダード」を意識した授業記録用紙の活用
- ② 「授業場面レポート」の提示（定期的により授業を紹介）

(4) 学級活動（1）に係る授業研究会の実施（プレ授業）

- ① 1 学年 村岡 真美 教諭 [令和 5 年 9 月 1 4 日（木）]
「合唱祭に向けてのよりよい取組を考えよう」
指導者：川越市立霞ヶ関北小学校 大澤 崇 校長
- ② 2 学年 前田 収 教諭 [令和 5 年 9 月 1 4 日（木）]
「合唱祭に向けてのクラスの取組を決めよう」
指導者：川越市立月越小学校 遠藤 千絵 校長
- ③ 3 学年 藤田 菜緒 教諭 [令和 5 年 9 月 1 4 日（木）]
「合唱祭を成功させるために、クラスの目標となるスローガンを考えよう」
指導者：川越市立広谷小学校 浅見 久江 校長



【1 学年プレ授業】



【2 学年プレ授業】



【3 学年プレ授業】

(5) 学級活動（1）に係る授業研究会の実施（11月10日本発表）

- ① 1 学年 田野 春美 教諭
「野田中学校をよりよいものにするために私たちにできることを考えよう」
指導者：川越市立霞ヶ関北小学校 大澤 崇 校長
- ② 2 学年 中川 奏 教諭
「2 年生後期、自主性を身に付けるためにできることを考えよう」
指導者：川越市立月越小学校 遠藤 千絵 校長
- ③ 3 学年 市川 富夢 教諭
「新入生に野田中学校の伝統を伝え残すために何ができるか考えよう」
指導者：川越市立広谷小学校 浅見 久江 校長



【1 学年研究授業】



【2 学年研究授業】



【3 学年研究授業】

④ 参観者感想（概要）

- ・ 学習隊形や黒板掲示、電子黒板の活用等、たいへん参考になった。
- ・ 提案理由に沿って、生徒がしっかりと考え、話し合っていた。
- ・ 研究発表が終わった後も取組を継続していくことが大切だと思った。
- ・ 学級会グッズ等、小中で連携していけたらスムーズであると感じた。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

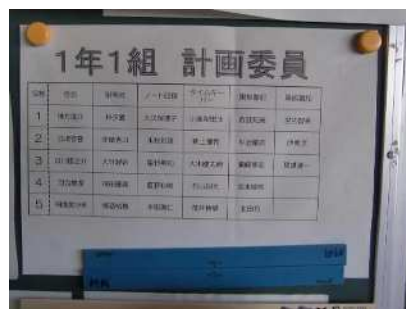
① 埼玉県学力・学習状況調査質問紙調査結果より（上段：本校 下段：県平均）

質問内容	1 学年	2 学年	3 学年
「授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだ」と感じている生徒の割合	79.8	73.3	73.8
	72.2	62.7	69.1
「授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚している」と感じている生徒の割合	83.3	81.4	82.5
	69.7	69.2	68.5
「自分の学級は、いろいろな活動にまともって取り組んでいたと感じている生徒の割合	97.6	98.8	96.3
	93.4	92.6	92.1

- ・ 授業スタンダードによる授業改善の推進状況を伺うことができた。
- ・ まとまりのある学級づくりは、学級活動の継続的な取組によるものである。

② 本時のめあてや、既習事項に基づく見通しの提示により、生徒にとってわかりやすい授業が展開されることの継続が学力向上につながっていく。

③ 計画委員による学級会の実践は、多くの生徒に活躍の場を与え、認め励まし伸ばすことへとつながる。



【計画委員掲示】



【川越授業スタンダードに基づく授業場面①】



【川越授業スタンダードに基づく授業場面②】

(2) 課題

① 埼玉県学力・学習状況調査質問紙調査結果より（上段：本校 下段：県平均）

質問内容	1 学年	2 学年	3 学年
「学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう」生徒の割合	22.6	31.4	32.5
	19.3	27.1	29.3

- ・ 今後も授業改善の視点により、生徒がより主体的に学び続ける魅力的な授業実践を継続していくことが重要である。

② 年間指導計画に即した生徒による自主的、実践的な活動の継続

- ・ 学校の実態に即して、学級活動（1）を主軸として計画的、継続的に年間35時間の学級活動を実践していくことが重要である。

研究主題

「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善」

～生徒一人ひとりの学ぶ意欲を引き出し、基礎学力の充実を図る工夫～

川越市立寺尾中学校

研究のポイント

- 寺尾中学校の生徒の実態をもとに、5つのグループ（人間関係づくり①、人間関係づくり②、学習規律・教室内環境整備、特別支援教育、学習の具体策）で現状分析と改善策を検討、改善策の実行へ向けた研究を行う。
- グループでの研究と並行して、様々な機会を利用して各自の授業改善に向けた研究を進める。お互いに授業を見合ったり、授業研究会を行ったりする。

1 研究の概要

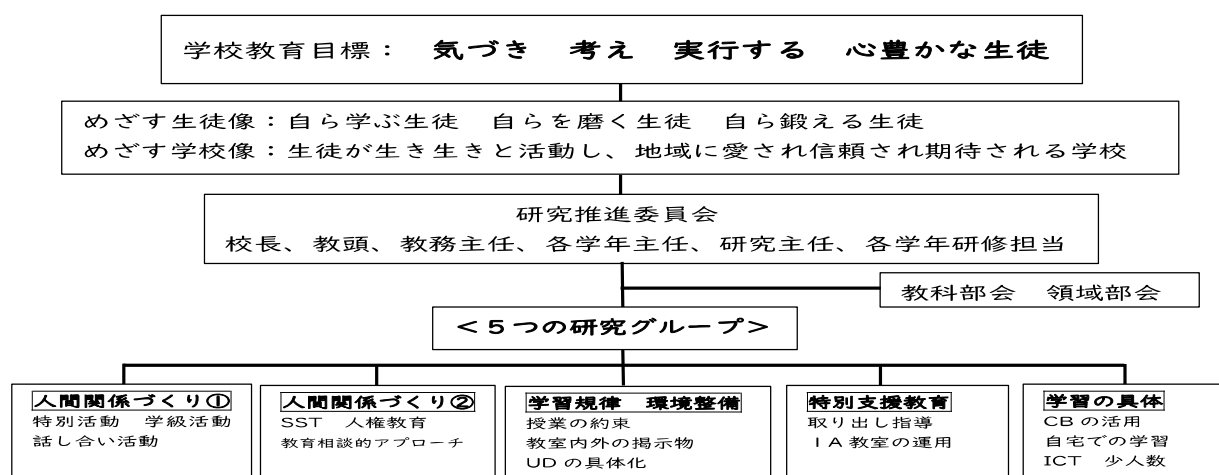
(1) 研究のねらい

これまで本校で実践してきた教育活動を、研究主題の視点に立って整理しさらに発展させ、学校教育目標の具現化を図る。

(2) 研究主題設定理由

寺尾中学校において、基礎学力の向上は喫緊の課題である。この課題の解決に向けて、生徒が学ぶ環境を整え、学ぶ意欲を引き出し、学ぶ喜びや楽しさを体験させたい。毎日の授業に工夫を加え、変化をもたせることで、基礎学力の向上できると考え、この研究主題を設定した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

主体的に授業に参加するためには、安心して授業に臨め、自分の思ったことを発言できる環境作りが不可欠である。

本校生徒の日常を見てみると、言葉が足りない、人との適切な距離感がつかめない、ということから、互いを誤解したり、必要以上に気を遣ったりしている場面が散見される。核家族化が進み、近所づきあいも希薄、さらに新型コロナによる対人関係経験の減少がそこに拍車をかけている。

本研究では、主体的な学びの「土台」を、この『人間関係づくり』と『学習の場の整備』と捉え、さらに今後の学習を見越して『個別の支援』『ICTの活用』について、グループに分かれて研究を進めた。

3 実践事例

(1) 人間関係づくり（特別活動 学級活動 話し合い活動）

① 目指したもの

「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業に向けては、自分のよさを見つけ、互いを尊重し、異なる考えも大切にしていける特別活動の積極的な実践が重要となる。中学校学習指導要領（特別活動）の内容の取扱いにおいても、「集団としての意見をまとめる話し合い活動など小学校からの積み重ねや経験を生かしそれらを発展させることができるよう工夫すること」とある。そこで、教職員の「学級会の指導力」が向上することを目指した。

② 取組

- ・学級会の実施（2学年→7月・12月・1月）
- ・学級会グッズ作り（2月・全学級分）
- ・校内研修（特別活動の教育的効果と模擬学級会）（4月）

③ 成果

校内研修において模擬学級会を行ったことで、学級会の進め方を理解することができた。今後は、全学年で確実な学級会の実施の積み重ねをし、よりよい人間関係づくりにつなげたい。

(2) 人間関係づくり（教育相談的アプローチ）

① 目指したもの

「基礎学力の充実」のためには、まず学習環境が整っていることが大切と言われている。そうした環境を整えるために、教育相談の側面から生徒たちにアプローチを試み、学校生活の基盤である学級における円満な雰囲気づくりを目指した。

② 取組

- ・ソーシャルスキルトレーニングの実施（月1回程度）
- ・人権カレンダーや自己を見つめる掲示（校内各所）
- ・SCによる帰りの会巡回（ミニ講座）の実施（月1回程度）

③ 成果

埼玉県学力・学習状況調査の質問紙における生徒の変容を見たところ、「人間関係形成・社会形成能力」や「自己理解・自己管理能力」に関する自己評価が高い傾向に推移していることがわかった。これらの実践を継続し、より共感的な人間関係を大切にする学級づくりを目指したい。

(3) 学習規律・教室内環境整備

① 目指したもの

人それぞれ得意なことと苦手なことがあるように、識字に課題を抱える生徒、色の識別に苦手を感じる生徒、もっている特性は人それぞれ違って当然である。その中で、課題を抱える生徒が一人でも多く学習に取り組みやすくなるよう、「すべての生徒が学びやすい環境」を目指す、ユニバーサ

ルデザインを意識した学習規律・教室内環境整備に取り組んだ。

② 取組

- ・現状把握のため、学習規律と学習環境について、全校生徒対象にアンケートの実施・教室内掲示物の巡回確認、アンケート結果をもとに課題を検討
- ・「寺尾中学校 授業の約束 10 箇条」の提案、全クラスへの掲示と生徒会活動を巻き込んだ啓発・ユニバーサルデザインを意識した掲示物の提案

③ 成果

授業の際、教師側が見やすいチョークの色を意識して授業を行い、色覚に課題を抱える生徒が授業に取り組みやすくなっているように感じる。

「寺尾中学校 授業の約束 10 箇条」を全生徒に意識させることで、落ち着いて学習に取り組む環境を作ることができ、生徒の学習意欲の向上につながっているように感じる。

(4) 特別支援教育

① 目指したもの

本校は、不登校生徒、学力不振、進路に向けて違和感を抱えた生徒、教室不適応など、個別の支援が必要な生徒が多い。基礎学力の定着を図るためには、個に応じた指導を充実させ、合理的配慮とその環境を整えていくことが重要と考え、特別支援教育部では以下のことに取り組んできた。

② 取組

- ・取り出し授業の実施
特別支援学級の弾力的運用（自立・作業等の体験授業）
日本語指導（語学指導補助員、国語科・英語科教員による指導）
学力不振生徒への支援（学校運営支援員等による個別の指導）
- ・1 A 教室の運用
教室で通常授業を受けることが困難な生徒に学習の場を提供する。

③ 成果

特別支援学級の弾力的運用のシステムが整うと共に、不登校生徒が学校復帰に向け 1 A 教室を利用することが増えた。

また、学力に関して不安を抱えていた生徒が、自信をもって希望校に進学できた。

(5) 学習の具体

① 目指したもの

生徒一人一人に対してきめの細かい指導を行うことが可能となり、そのことによって指導の効果を高めるとともに、習熟度に応じた学習展開が可能となると考え、取り組んだ。

② 取組

- ・学習に遅れやつまずきのある児童・生徒の学習集団においては、必要に応じて、前学年までの既習事項の学び直しや反復学習などによる「補充的な指導」を行う。
- ・効果的な学習指導を推進するため、学習集団の特性に応じて ICT を活用したり、教材・教具等を工夫したりした。

③ 成果

- ・レディネステスト等でつまずきの傾向を把握し、前学年までの既習事項を含めて、つまずきに応じた段階的・系統的な指導を実施することができた。
- ・発展的な学習を推進するための指導資料を検討し、生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた指導の充実を図ることができた。

4 研究の成果と課題

埼玉県学力・学習状況調査の生徒質問調査のデータから、令和4年度と5年度を比較すると、まず、自己肯定感が上昇している。また、思いやりや教師への信頼も深まっている。

この成果については、特に、人間関係づくり自分のよさを見つけ、互いを尊重し、異なる考えも大切にしていける体験を、学校行事等を通じて重点的に指導してきたことが結実したと感じている。

質 問 事 項	令和4年度	令和5年度
(16)自分には、よいところがあると思いますか	74.4	76.7
(33)先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができますか	70.5	82.9
(13)私は誰かが心を痛めていたり落ち込んでいたり嫌な思いをしているときなど進んで助ける	48.9	70.7
(2)ウ勉強していてわからないところがあったら、先生に聞く	45.7	52.8

一方で、やり続ける努力、めんどろでつまらない、やらずにあきらめてしまう、という回答は増加している。今後の大きな課題だと捉えている。

質 問 事 項	令和4年度	令和5年度
問題が退屈でつまらないときでもそれが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する	66.7	56.7
学校の勉強をしているとき、とてもめんどろでつまらないと思うことがよくあるので、やろうとしていたことを終える前にやめてしまう	24.8	27.3
授業の内容が難しいときは、やらずにあきらめるか、簡単などころだけ勉強する	19.4	28.4

「寺尾中学校 授業の約束10箇条」

1. 休み時間に授業準備、3分前着席をする。
○ロッカーに教材が置いてあるのを忘れず、授業に必要なものを確認する。
2. 服装を整えて、学習の始めのあいさつをきちんとする。
○ボタン、袖、名札、髪型などを自分で確認する。学習に支障のある長さの髪は結ぶ。
○「起立」「礼」の号令に合わせて「お願いします」。顔先後礼。
3. 正しい姿勢で座る。
○背筋を伸ばして深くイスに座る。
○机からはみ出さず、横座りなどをしない。
4. はっきり返事をし、みんなに聞こえる声で話す。
○「はい」「～です」「～ます」など、聞き手にわかりやすく、最後まではっきりと話す。
5. 話す人を見ながら、最後まで話を聴く。
○話す人の方に体を向け、目を見て話を聞く。「うなずき」「返事」を大切に、して、聴く。
○必要に応じてメモをとる場合もある。
6. おだ話、手遊び、落書きをせず、集中して話を聴く。
○机や指示を聞き逃さないように、授業に最後まで集中する。
7. 必要ないものを机の上に置かず、机の上と頭の中を整理する。
○机の上は整理して授業に集中する。机と頭の中を整理しながら授業に取り込む。
8. 勝手に席を離れず、落書きをして授業に集中する。
○授業の空気を大切に。指示をしっかりと聞いて課題に取り組みできるようにする。
9. 誰が見てもわかるように、丁寧にノートを書く、整理する。
○紙を直すだけでなく、色分けやメモを書き加えるなど工夫した自分のノートをつくる。
10. 学習の終わりのあいさつをきちんとする。
○あいさつが終わったら、机の上を片付け、次の準備をして、イスをしまってから休み時間に入る。

みんなで守り、よりよい授業にしよう！



研究主題

「自主的・実践的な集団活動を通して、生徒一人一人の『生きる力』の育成 ～積極的な話し合い活動の充実～」

川越市立霞ヶ関東中学校

研究のポイント

- 生徒一人一人に自治的活動を実践する力を育成する。
- 学級会霞東スタンダードを確立する
- 発達段階に応じた話し合い活動を実践する。
- 学級会霞東スタンダードを学校行事・生徒会活動へ活用する。

1 研究の概要

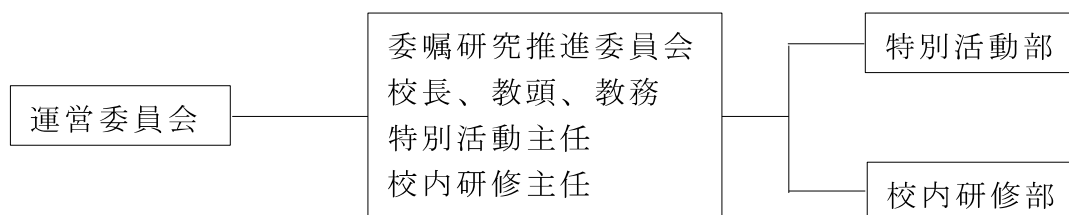
(1) 研究のねらい

現在では、自分自身で課題を見つけ主体的に活動に取り組むことや、自ら考えて行動することが求められている。また、小学校では盛んに行われていた話し合い活動が、中学校ではほとんど行われていない現状があり、教員の指導力を向上させる。

(2) 研究主題設定理由

本校の生徒は比較的学力も高く、落ち着いて生活することができる。決められたことを忠実に守ることができる真面目な生徒が多くいる。しかし、生徒自ら課題を見だし、解決に向けて主体的に活動に取り組むこと、自ら考えて行動することに苦手意識があり、本校の大きな課題としてあげられる。また、埼玉県学力・学習状況調査「規律ある態度」では、進んで挨拶すること、話を聞き発表することに関して、80%を下回っている状況だった。そこで、学級活動・学校行事・生徒会活動などの集団活動を通して、話し合い活動を充実させるとともに、生徒一人一人の「生きる力」を育成していきたいと考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

- (1) どの教師も学級活動(1)を指導できるような、学級会霞東スタンダードを確立する。
- (2) 本時の授業だけでなく、事前事後の活動を充実させるために、議題選定から振り返りまでの一連の流れを充実させる。
- (3) 小学校で身に付けた話合いのスキルを十分に発揮できるよう、小中連携を図った話合い活動を確立する。
- (4) 発達段階に応じた話合い活動を実践する。
- (5) 学級会霞東スタンダードを学校行事・生徒会活動に活用する。

3 実践事例

(1) 学校で統一したこと

- ① 4月に全学級で学級会ガイダンスを実施することで、生徒がどのクラスでも同じように話合い活動ができるようにするだけでなく、教職員も同じように指導できるようにした。
- ② シナリオ・黒板掲示用の学級会グッズを統一し、わかりやすい話合い活動ができるようにした。また、決定しなかった意見に対しては「ありがとう」のカードを貼っている。
- ③ 学級活動委員への指導も流れを統一している。できるだけ生徒の力で進行できるように、活動可能日と学級会までに済ませるべきことを伝え、生徒がスケジュールを組んで準備させるよう促している。生徒は準備ができたなら、担任に提出し、適宜助言するようにしている。

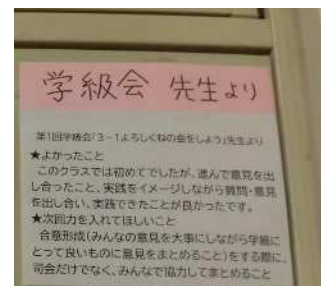


(2) 学級活動(1)のための手立て

- ① 学級会ノートを活用し、生徒が自分の意見を出せるように事前に記入している。その後、学級活動委員と担任が事前に出た意見に目を通し、学級活動委員は議事進行計画を立て、担任は、学級会ノートにコメントし、発言を後押ししている。
- ② ICT機器の活用し、準備の効率化に努めている。まず、Googleフォームの回答集計機能を活用し、学級の生徒がそれぞれどんな意見をもっているのか、事前に学級活動委員に把握させることで、議事進行計画に役立っている。また、電子黒板に議題・提案理由・話合いのめあて・決まっていることを写すことで、生徒全員に共有させるだけでなく、黒板を話合いだけに広々と活用できる。
- ③ 全員が必要感をもって話合いができるように小グループで議題にしたいことについて全員が話し合った。実践してみたいことを3～4人の少人数グループで話し合い、意見を出し、その後学級活動委員を中心に、振り返りをもとに3～5つの議題まで絞り込む。最後にクラスに候補を

提示し、優先順位を決め、優先順位が高いものをクラスの議題として選定した。

- ④ 活動計画カレンダーを活用することで、生徒が計画的に実践できるようにした。
- ⑤ 振り返りを学級会ノートに貼り溜めていく形式を取り、生徒にとって自身の伸びが見やすくなるだけでなく、フィードバックは教師が生徒の振り返りや実践等を観察したことから話をしたり、全教室に設置している学級会コーナーに掲示したりすることで十分行うことができるようになった。



(3) 小中の連携

小中連携特活部会を組織し、各校で活用している学級会グッズ等の情報交換や発達段階に応じた指導についてねらいを定め、小学校で培った話し合い活動を中学校でさらに発展させた指導ができるようになった。

(4) 話し合い活動の充実のために

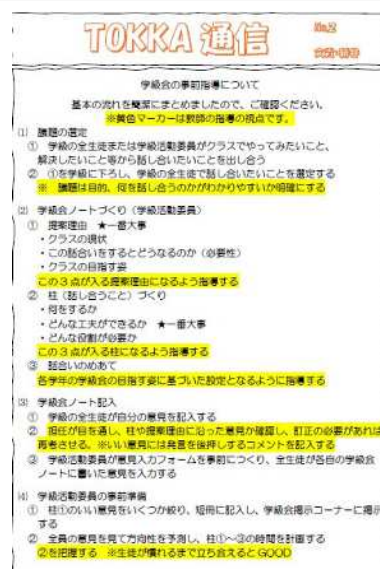
- ① 発達段階に応じた話し合い活動を充実させるため、中学校でも学年に応じた話し合い活動の目標を設定した。

小学校	低学年	いろいろな役割（司会・記録）を体験できるようにする		
	中学年	よりよいものに意見をまとめることができるようにする		
	高学年	教師は見守り、児童の力で意見をまとめることができるようにする		
中学校	- 話し合いの機会を確保する - 折り合いをつけた決定ができるようにする - 課題解決の議題も選定することができるようにする	1年生	小学校の積み重ねを生かして、学級全体で意見を出し合い、決定できるようにする	
		2年生	反対・心配・質問を出し合い、話し合いを深められるようにする	
		3年生	話し合いから実践まで生徒だけの力でできるようにする	

- ② 特別活動主任が先生方に向けた通信（TOKKA通信）を発行し、学級会の事前指導から事後指導の仕方や各クラスの公開授業を参観して気づいたこと、学級活動(1)(2)(3)のちがいを掲載し、教員の意識向上を図った。

(5) 生徒会活動

「3年生を送る会」と「生徒総会」で話し合い活動を行った。「3年生を送る会」では、学級を超えた話し合いとして、装飾担当、出し物担当に分かれそれぞれの担当で話し合い活動を行った。「生徒総会」では異年齢集団の活動についての話し合いを行った。



4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 埼玉県学力・学習状況調査「規律ある態度」の向上
「礼儀正しく人と接することができる」のすべての項目について、昨年度の調査に比べ伸びが見られた。
- ② 学校で統一して学級活動(1)に取り組むことができた。
霞東スタンダードをもとに、自治的活動が実践できるようになっている。その根拠として、全国学力学習・状況調査の「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問で、あてはまる・どちらかというとあてはまると回答した生徒が93.2%と県平均、全国平均ともに上回った。
- ③ 教師の特別活動への理解
学級会の助言の仕方についての質問があったり、よりよい指導について話し合ったりと、教師が一丸となって特別活動の指導に当たっている。

- ④ 仲間の意見を聴き、自分の意見を発言できるようになった。

根拠として先述した生徒総会では、約80名の生徒が自分の意見を発表し、その中には心配・反対意見も含まれていた。今までの話し合い活動を通し、支持的風土が醸成されたとともに、自己肯定感が高まったからではないかと考えた。



(2) 課題

- ① 学年・学級の実態に応じて議題選定を充実させること
議題が明確でなく、話し合いが十分深められないこともあったので、よりよい議題について今後も学校全体で研究を深め、話し合いを活発にし、生徒がよりよい人間関係や豊かな生活をつくれるようにする。
- ② 学級活動(1)で身に付けた話し合い活動を生かして、意思決定し、実践する指導を充実させること
全国学力調査の「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。」という質問について、あてはまる・どちらかというとあてはまると回答した生徒が75%にとどまる結果となった。これを改善していくために、学級活動(2)(3)の指導について研究を深める必要があると考えている。
- ③ 話し合い活動を授業内で生かしていくこと
特別活動により、構築した人間関係を土台に、各教科の目標を達成できるよう、話し合い活動を手段としての役割を十分発揮できるようにする。

「自信をもって発信できる児童の育成」

～他者との対話を通して～

川越市立川越第一小学校

研究のポイント

- 自分の考えをもつための、思考・判断・表現を軸にし、教科を横断的につないだカリキュラム・マネジメント
- 「比較・分類・関係付けて」自分の表現方法で伝えるための思考ツールの活用
- 学びを意味付け、価値付けるための学びのあしあと
- 一小スタンダードと川越市小・中学生学力向上プランを軸にした指導
- ICTの効果的な活用（電子黒板・学習者用コンピュータ等）

1 研究の概要

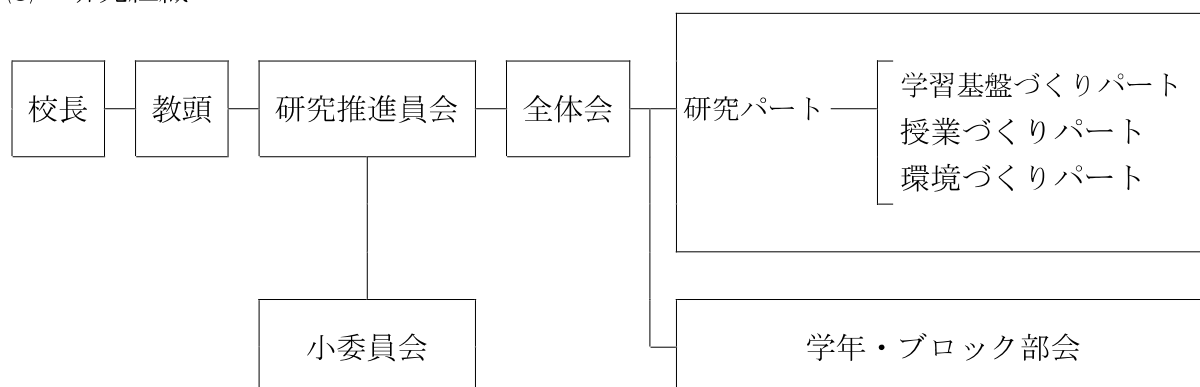
(1) 研究のねらい

本校の教育目標は「いのちをだいに」「人をだいに」「心をだいに」「ものをだいに」であり、これらを「四つのだいに」と呼び、日々、この目標を意識して教育活動を行っている。本校では、児童の「個別最適な学び」「協働的な学び」をさらに充実させるため、昨年度までの研究を引き継ぎ、令和5年・6年度の2年間、川越市教育委員会・川越市教育研究会の委嘱を受け「対話を通じた発信」をテーマとして本校の課題でもあり、これからの時代に必要な力、「発信力」を育てる研究に取り組んできた。全職員で共通の認識をもって指導に当たるため、「発信」の定義を「多くの人に目的をもって主体的に伝えること」とした。日々の授業の中で自らの経験や既習事項を生かして新たな考えを作り出したり、他者の様々な考えを学び合ったり、他者に自分の新たな考えを作り出すための材料を支援助言してもらったりすることにより、「発信力」を育むことを目指して、各学年、ブロック、各研究パートで手立てを検討し、研究に取り組んだ。

(2) 研究主題設定理由

本校は、『四つのだいに』アンケートを毎学期行っている。その項目で「進んで発表していますか。」について課題をもっている児童が多くみられた。さらに今年とったアンケートから、自分の考えをもつことや、友達の考えと比べて、自分の考えをよりよいものにすることはだいぶできている反面、相手に伝えやすくすることが、まだできていない児童が多いという結果が出た。また、教師も日頃の授業の様子、生活の様子から、話す・発表する・伝える・表現する等に課題があると考えた。そこで、研究主題を「自信をもって発信できる児童の育成」とし、自分の考えをもって相手に伝えていくことで相手に認められ、自信をもって発信することができる児童の育成を目指して設定した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

上記の主題を受け、目指す児童像を「対話を通して多くの人に目的をもって主体的に伝えることができる児童」と設定した。また、本校では「対話」を「課題に対して、お互いの意見の違いを理解して質問などを通して話を深めていくこと」と捉えた。そして、達成のために「①自分の考えをもつ（カリキュラム・マネジメント）」「②発信するための自分の表現方法を選ぶ（思考ツール）」「③お互いが発信し合うための学び合い（話し合い名人、クリティカルシンキングなど）」の三つを柱として、それぞれに低・中・高学年ではどのような力をつければよいのかを考え、系統性をもたせた。ここから具体的な手立てを考え、取り組んだ。

3 実践事例

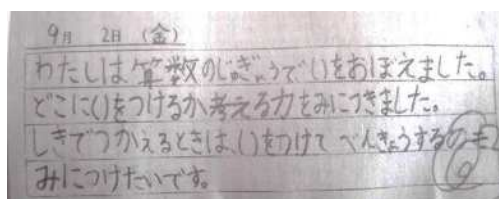
(1) 授業作りに向けた手立て

- ① 自信をもって発信するための10の重点
発信する授業を具体化し、「自信をもって発信する」を工夫改善するため、川越第一小の『自信をもって発信するための10の重点』を設定し、効果的な働きかけをした。



② 「学びのあしあと」の充実

川越市の学力向上プランを基にした、一小スタンダードを基準に、課題とまとめ、振り返りを大切にしたい授業実践に取り組んだ。振り返りはどの教科でも授業スタイルを統一することで学習につながりをもたせた。特に振り返りでは「学びのあしあと」に取り組み、1週間の学習活動での自分の考えや行動を振り返り文章にすることでどのような活動がどのような学びにつながっているといった自分自身の学びを意味付けることができた。

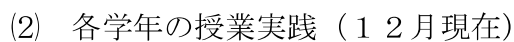


7月 8日	高学年 として成 長する 力	毎朝、登校前の2年生が、育てているオクラを見せてくれます。教室に着くのが遅れることはないで、低学年の言いたいこと、伝えたいこと、聞いて欲しいことをしっかりと受け止めています。 たまには、「5年生は朝マラソンがあるから」と言って、話を切り上げることがありますが、高学年として、他人とどのくらいの程度で話せばいいのかわかなくてあげることが大切だと思います。もし残念そうにしても、「また明日話せばいい」と伝えていきます。 今週は、高学年として、低学年とともに成長する力が身につきました。
----------	-------------------------	--

令和3年度より、発信に関わる国語の学習を中心に、カリキュラム・マネジメントの見直しを行い、単元一覧表に記入することで各教科の各単元で、他教科との関連性を意識しながら授業を進めた。

研究授業の振り返りとして行った。

国語	国語のもの 事実と意見を区別しよう ないようがないように 図書館へ行くこと	動物たちが救えてくれる 海の中のならし 漢字の成り立ち 知れたいことを聞きそう	世界でいちばんや かましい音 文の組み立てと えらよう
国語 (発信)	この言葉、あなたならど う考える ★心に残った言葉につ いて言いたい質問しながら 話をつなぐ		環境問題について 報告しよう ★資料を活用して 報告する
かがやき			私たち地球人
外国語	Hello, friends,	When is your birthday?	What do you want to study?



～国語科～



～国語科～

Handwritten Japanese text on a grid background. The text includes the characters '人' (person) and '水' (water). There is also a drawing of a tractor.

③ 4年生 「サツマイモ博士になろう」 ～総合的な学習の時間～

4人グループの話合いの手段としてジャムボードの付箋に単語のみ書いて話合いの手段として活用した。

話し合った内容をグループでまとめ、黒板に貼り付けて、他のグループがさらによくするポイントを話し合った。



④ けやき学級 「けやき畑やってみよう！」 ～生活単元～

児童の考えをみんなのウェイビングマップに追加し、整理することで思考を広げるきっかけを作りながら話合いを進めた。

プロジェクトチームに分けて活動することでそれぞれが自分の良さを生かし、自信をもって取り組んだ。



この他に、2月までにすべての学年で授業研究を行った。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 既習事項を活かしながら、自分の考えをもつためには、教科横断的なつながりを意識することが重要である。国語科の「伝え合う」「話し合う」を中心としたカリキュラム・マネジメントを行い、多教科にわたるつながりを意識しながら、研究授業を行い、目指す児童像にせまることができた。
- ② 「比べる」「関係する」「分類する」「多面的に見る」力を育成する上で、思考ツールの活用が有効であった。思考ツールを使って考えることが、問題解決の場面で活かされた。
- ③ 児童の1週間の学びを振り返り、書くことでどんな力が身に付いたか意識でき、積み重ねることによって、自己肯定感の向上が見られた。

(2) 課題

- ① 発信するための手立ての確認として「10の重点」を見直し、全体のつながりを意識して、他教科にわたる授業を展開できるようにする。
- ② 本校の立地を活かし、外部の人的・物的な資源と連携し、より社会に開かれた教育課程を求めていきたい。
- ③ 児童間の学力の差が大きいので、差を縮めるための方策を考えていきたい。
- ④ 学びの積み重ねによる児童の具体的な伸びを見取り、評価しながら確認し、さらに個別最適化された学習支援につなげていく。

「豊かななかかわり合いの中で、今と未来に生きる」 ～自分が好き、ひとが好き、運動が好き～

川越市立川越小学校

研究のポイント

- 仲間とかかわりながら運動することで、自分のよさに気づけること（自分が好き）
- 仲間と一緒に活動する中で、チームへの愛着と協力が芽生えること（ひとが好き）
- 学習計画や学習活動、運動に親しむ環境づくりを工夫すること（運動が好き）

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

児童が様々な出来事に直面し、起こりうる問題に対応できる力をもち、心身ともに健康に生きていくことができるようにするため、豊かななかかわり合いの中で自尊感情と技能・体力を高める体育科の指導法の研究をねらいとする。

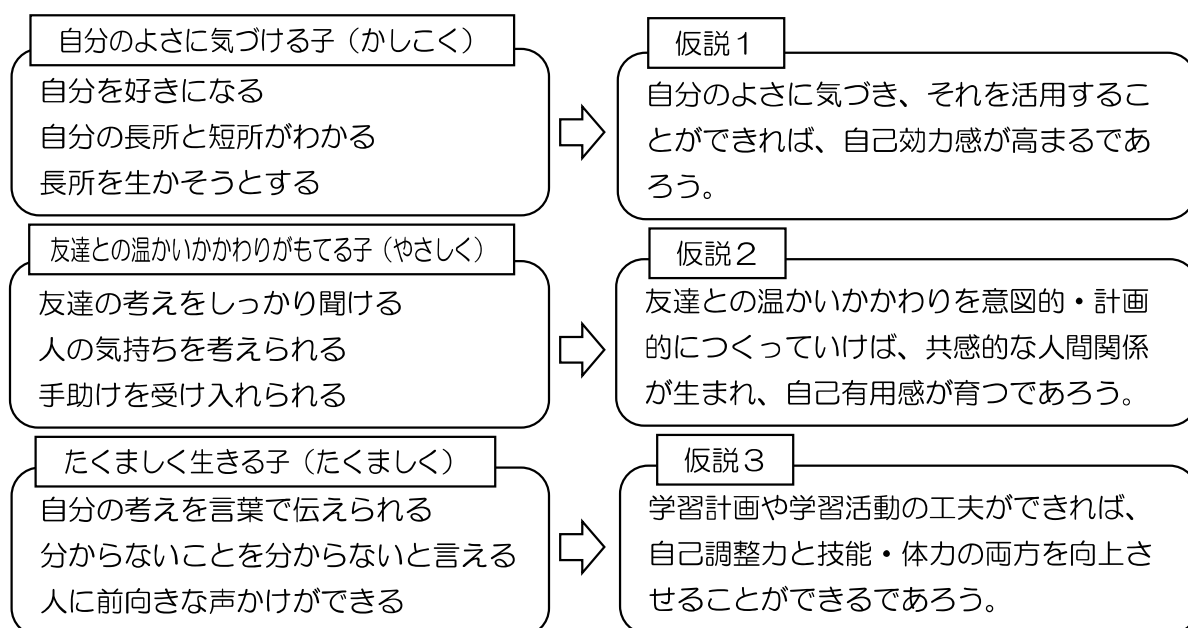
(2) 研究主題設定理由

本校は、思いやりのある優しい児童が多い反面、不登校や登校渋り、打たれ弱さ、自尊感情の低さが実態としてある。

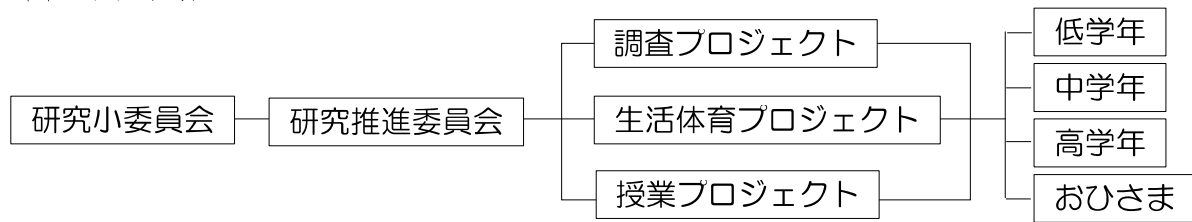
このような児童の実態から本校では、自尊感情を向上させるため、令和2年度は算数・体育・道徳・特活で、令和3年度は自尊感情を高めるためにまずは学級経営であるということから、道徳と特活で豊かななかかわり合いについての研究を深めた。

令和4年度からは体育科に絞り5年度からは、副題を「自分が好き、ひとが好き、運動が好き」として研究に取り組んでいる。「自分が好き」とは自己効力感を高めることであり、「ひとが好き」とは自己有用感を高めること、「運動が好き」とは自己調整力を高めることである。この「自分・ひと・運動」との豊かななかかわりを重視した体育科授業の工夫・改善を図ることにより、児童の自尊感情及び技能・体力を高めることができると考え、本研究主題を設定した。

(3) 目指す児童像



(4) 研究組織



2 研究の内容

(1) 調査プロジェクト

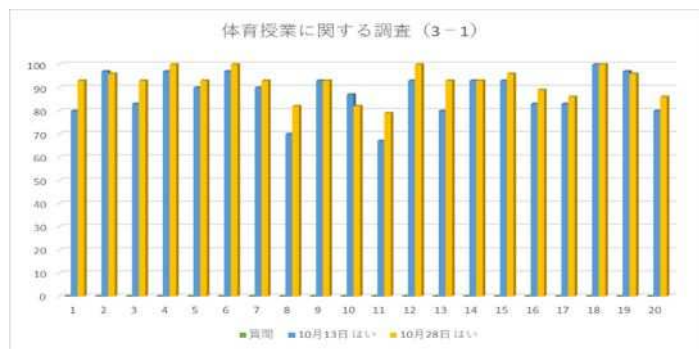
① 体育科の授業評価

高橋健夫氏らによる評価方法を採用し、単元前後の診断的・総括的評価、授業後の形成的評価を行うことにより、児童の体育科や自身の成長に対する意識、ひととのかかわりにおける変容を調査し、授業改善に生かす。

表2 診断的・総括的授業評価の調査票 (高橋健夫, 2000)

体育授業に関する調査			
この調査用紙には、体育の授業に関する文章が30項目あげてあります。この文章を読んでみてはまる場合には「はい」に○をつけてください。当てはまらない場合には「いいえ」に○を、また、どちらとも言えない場合には「どちらでもない」に○をつけてください。			
1. 体育でゲームや競争をするとき、ずいぶん緊張することを感じます。	はい	どちらでもない	いいえ
2. 体育では、いろいろな運動が上手にできるようになります。	はい	どちらでもない	いいえ
3. 体育では、みんなが、楽しく運動できます。	はい	どちらでもない	いいえ
4. 体育では、ゲームや競争をするときは、ルールを守ります。	はい	どちらでもない	いいえ
5. 体育をするとき体がじょうぶになります。	はい	どちらでもない	いいえ
6. 体育で、グループで作業をたててゲームや競争をします。	はい	どちらでもない	いいえ
7. 私は、少し難しい運動でも練習することでできるようになる自信があります。	はい	どちらでもない	いいえ
8. 体育は、明るくてあたが感じがします。	はい	どちらでもない	いいえ
9. 体育で、他の人が運動しているとき、応援します。	はい	どちらでもない	いいえ
10. 体育をしているとき、うまい子や強いチームを見てうまくなるやうな考えをすることがあります。	はい	どちらでもない	いいえ
11. 私は、運動が、上手にできるほうだと思います。	はい	どちらでもない	いいえ
12. 体育では、新しいことを覚えることができます。	はい	どちらでもない	いいえ
13. 体育では、自分から進んで運動します。	はい	どちらでもない	いいえ
14. 体育では、ゲームや競争で勝っても負けても満足に思えることができます。	はい	どちらでもない	いいえ
15. 体育では、自分や先生が助けてくれます。	はい	どちらでもない	いいえ
16. 体育では、運動がうまくなるための練習をする時間がたくさんあります。	はい	どちらでもない	いいえ
17. 体育がはじまる前は、いつもはぼろぼろです。	はい	どちらでもない	いいえ
18. 体育では、いっしょにやると自分勝手なことはしません。	はい	どちらでもない	いいえ
19. 体育では、クラスやグループの約束を守ります。	はい	どちらでもない	いいえ
20. 体育のグループやチームで話し合うときは、自分から進んで意見を言います。	はい	どちらでもない	いいえ

高橋健夫編、「新版 体育科教育学入門」、大修館書店
高橋健夫編、「体育授業を観察評価する」、明和出版



体育授業についての調査

小・中学校 年 組 男・女 番 名前 [] (月 日)

今日の体育の授業について質問します。下の1～9について、あなたはどう思いましたか。当てはまるものに○をつけてください。

1 ふかくなるのことが、かんどすることがありましたか。	(はい・どちらでもない・いいえ)
2 今までできなかったこと(運動や作業)ができるようになりましたか。	(はい・どちらでもない・いいえ)
3 「あっ、わかった!」とか「あっ、そうか」と思ったことがありましたか。	(はい・どちらでもない・いいえ)
4 せいいっぱい、ぜんりょくをつくして運動することができましたか。	(はい・どちらでもない・いいえ)
5 楽しかったですか。	(はい・どちらでもない・いいえ)
6 自分から進んで学習することができましたか。	(はい・どちらでもない・いいえ)
7 自分のめあてにむかって何事も練習できましたか。	(はい・どちらでもない・いいえ)
8 友だちと協力して、なかよく学習できましたか。	(はい・どちらでもない・いいえ)
9 友だちとおたがいに教えたり、助けたりしましたか。	(はい・どちらでもない・いいえ)

② 言葉がけチェック

教師の発言を7分類し、記録、振り返りを行うことにより授業改善に努める。(目標は100回以上)
〈7つの分類〉

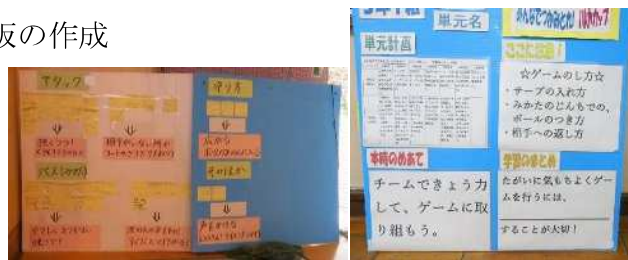
- ・発問 ・肯定 (一般的・具体的)
- ・矯正 (一般的・具体的) ・否定
- ・励まし

分類	内容	回数
発問	・問いかけを繰り返して授業を進める(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	7
一般的肯定	・よく頑張った(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	52
具体的肯定	・よく頑張った(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	34
一般的否定	・よく頑張った(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	9
具体的否定	・よく頑張った(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	20
発問	・よく頑張った(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	0
励まし	・よく頑張った(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	48
合計		170

(2) 生活体育プロジェクト

① プラスチック段ボールを使った掲示板の作成

軽量で持ち運びも容易な掲示板を作成し、児童がより主体的に学習することができるよう、学習過程や本時のねらい、ポイント等を可視化した。



② 児童が運動に親しむ環境づくり

休み時間に児童が積極的に外遊びを行うことをねらいとし、竹馬などの昔遊びの道具の開放や、バトンスローなどの手作り用具での遊び、鉄棒教室や外遊びキャンペーンの開催などを行った。

(3) 授業プロジェクト

① 川小スタンダード（授業スタイルの統一）

- (1) 集合・整列・あいさつ
- (2) 準備運動
 - ①準備運動＋領域に応じた準備運動
 - ②体力向上の運動（3分間）・・・3分間の持久走、または持久力の高まるもの
- (3) 場の準備
- (4) ねらい（教師）とめあて（児童）の確認
- (5) 主運動
 - ①ベーシックタイム（共通課題）
 - ②チャレンジタイム（個別課題）
- (6) 後片付け
- (7) 整理運動
- (8) 本時のまとめ（教師）と振り返り（児童）
評価（自己評価・相互評価・教師評価）
- (9) 体調確認・あいさつ

② 児童への支持の統一

- (1) 笛の約束
 - ・笛1回「ピ」…その場で止まり、教師を見る。
 - ・笛2回「ピ・ピ」…その場で2の休めをし、教師を見る。
 - ・笛3回「ピ・ピ・ピ」…すぐに教師の方へ集合し、2の休めをする。
- (2) ハンドサイン
 - ・指で1…1の休め
 - ・指で2…2の休め
 - ・指で3…3の休め

3 実践事例

令和5年度は、各学年とおひさま学級の計7回の授業研究会を行った。

第4学年3組 思いをつなげて1・2・アタック（キャッチバレーボール）

仮説1

自分のよさに気づき、それを活用することができれば、自己効力感が高まるであろう。

手立て

- ・選手名鑑の活用
- ・ペアグループでの話し合い活動



ペアグループでの練習試合後に仲間のよさを伝え合い、選手名鑑を作成する。選手名鑑は試合前に相手チームが見ることができ、作戦に生かすことができる。



仮説2

友達との温かいかわりを意図的・計画的につくっていけば、共感的な人間関係が生まれ、自己有用感が育つであろう。

手立て

- ・ファイトコール・ドンマイコール
- ・ペアグループでのかわり
- ・所属感を高める工夫



ペアグループで円になってファイトコールをし、士気を高め一体となってゲームを行う。またチームで考えたドンマイコールをかけ合い、励ましながら温かい雰囲気をつくる。得点板などにチームのエムブレムを入れ、自チームへの愛着をもたせる。



仮説3

学習計画や学習活動の工夫ができれば、自己調整力と技能・体力の両方を向上させることができるであろう。

手立て

- ・チームデータの記録・視覚化
- ・ゲームを意識した基礎練習



チャレンジタイムでのチーム・個人の伸びを数値化することで、技能のポイントを意識した教え合いができるようにする。また、声かけ（あいさつ、励まし、アドバイス）も数値化し、意欲的に取り組むことができるようにする。



4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 授業の工夫改善が図られ、児童が生き生きと運動に取り組めるようになった。
- 多様な外遊びをする児童や体育好きな児童が増えてきた。
- チームでの役割を意識し進んで行動できる児童が増えてきたことから、自己有用感が向上してきた。
- 仲間やチームのよさを言葉で伝えられる児童が増えてきた。
- 研究を積み重ねて教師の体育科への意識が向上したことや、作成した教材を継続して使うことができている。

(2) 課題

- 技能の高まりを見取るための方策を検討する。
- 自尊感情を見取る方法を更に追究する。
- 本年度の授業研究会で扱ったゲーム、ボール運動はそもそもチームで行うものであった。他の領域で、児童のかかわりをどうもたせていくか、研究を継続する。

「新時代に対応し、未来を創造できる児童の育成」 ～進んで考えを伝え合い、学び合う国語科の授業づくり～

川越市立霞ヶ関西小学校

—— 研究のポイント ——

- 社会の変化に対応し、様々な他者とともに新たな価値観をつくりあげられる児童を育成する
- 教師が学習のファシリテーターとなり、児童の主体的な学びを促進させる
- 協働的な学びを通して、伝え合うことのよさが分かる学習を行う
- 児童、教師ともに学ぶ環境を整え、持続可能な学校研究を実現する

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

先行き不透明な現代において、社会に主体的に関わり、多様な人々との交流を通じて、新たな価値を創造し、未来を切り開くことのできる児童を育成することは、必要不可欠である。研究の目的を、「子供たちが一生涯学び続け、社会の激しい変化に対応し、豊かな人生を歩むことができるようにする」こととして、「子供たちの将来を見据えた本質的な幸せを考える」研究に取り組むことにした。

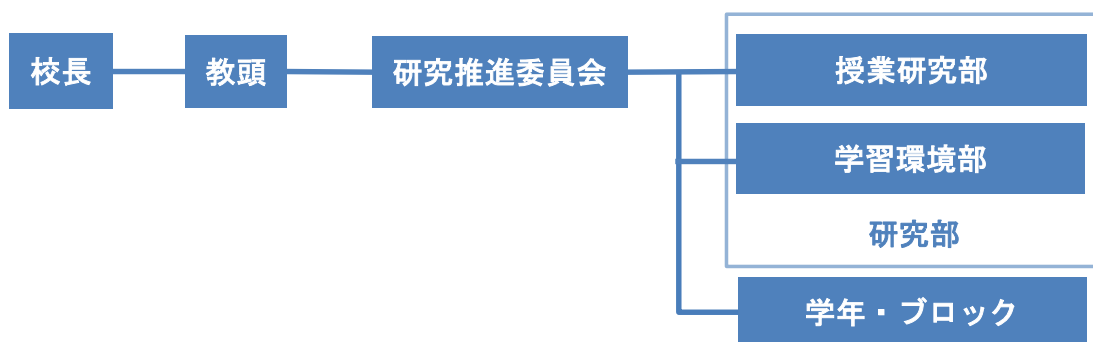
(2) 研究主題設定理由

本校は昨年度、「進んで考えを伝え合い、学び合う国語科の授業づくり～正しく読み、自分の考えを広げる児童の育成を通して～」を研究主題に、国語科における文章を読解する力と自分の考えを伝える力の向上に重点を置いた学校研究に取り組んだ。研究を通して、叙述に即して心情を読み取ることができるようになり、話合いの話型を活用することで、話合いの仕方のスキルを身に付けた児童も増えるなど、成果をあげることができた。また、令和5年度に実施した埼玉県学力学習状況調査においても、国語科の学力の伸びが見られた。

その一方で、与えられた課題をこなしたり、仲間と協調しながら生活することはできるものの、自分で考えて主体的に行動できなかったり、他者と考えを伝え合うことで自分の考えを深めたりできない児童もいる。

そこで今年度は、「新時代に対応し、未来を創造できる児童の育成～進んで考えを伝え合い、学び合う国語科の授業づくり～」を研究主題に、国語科の文学的文章に焦点をあてて学校研究に取り組んだ。研究において、「個別最適な学習」と「協働的な学び」を組み合わせた学びの充実についての実践を行い、自ら考え行動できる児童の育成を目指した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 研究の大仮説の設定

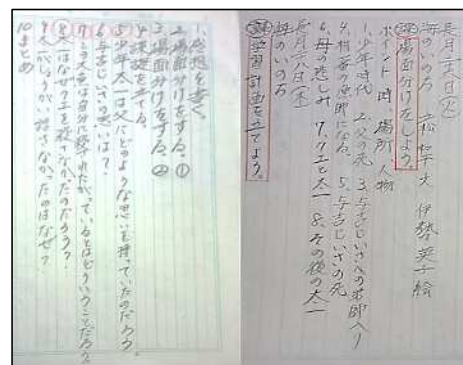
【大仮説】教師が学習のファシリテーターとなり、個別最適な学びと協働的な学びを適宜適切に取り入れていけば、新時代を生き抜く児童を育成することができるだろう。

(2) 研究の仮説の設定

【仮説 1】児童主体の課題に沿って学習を進めれば、児童は進んで考えを生み出さるだろう。

- ① 学習課題に必要性をもたせる。
- ② 学びの主人公を児童とする。
- ③ 自ら学びたいことや学習過程を考えるさせることで自己調整能力を育成する。

- ・「初発（はじめ）の感想の手引き」の活用
- ・児童の初発の感想を生かした、授業の課題設定
- ・単元のはじめに、各時間の課題を児童と一緒に考える



【児童がたてた単元の課題】

【仮説 2】自分の考えをもち伝え合うことのよさが分かる学習を進めれば、児童は他者の意見を尊重し、自分の考えや思いを適切に表現できるようになるだろう。

- ① 自分の考えを相手に理解してもらうためにどうすればよいのかを考え、それを相手と伝え合うことで、考えをより深めることができる。伝え合うことのよさを児童たち自身が実感できる授業を組み立てる。
- ② 伝え合う活動を通して、自己表現をすること、それを受け入れて承認されることの喜びを実感することで、「もっと話したい」「もっと発信したい」という文学的文章に没頭する児童を育成する。

- ・話し合いの視点の提示
- ・ペア、グループ、全体などのグループサイズの工夫
- ・学び合いの目的の明確化
- ・一人一人がファシリテーターとなった話し合い（高学年）
- ・叙述から読み取れる人物像や心情を付箋に書く活動
- ・話し合いの時間の確保（10分～18分）
- ・人物相関図や心情メーター等の活用

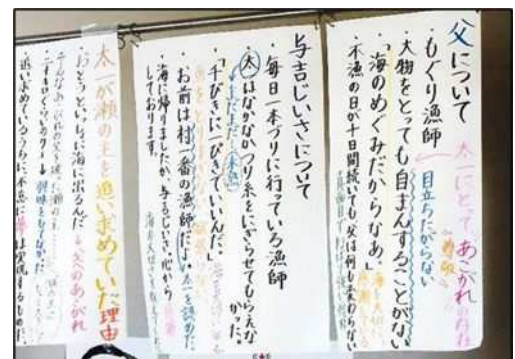


【話型に頼らない話し合い】

【仮説3】児童、教師共に学ぶ環境を整えれば、自分の考えを広げ、深めることに繋がるだろう。

- ① 大事なことは児童が学習環境に「浸る」ことである。
- ② 教師が1与えたら1を受け取る児童の育成ではなく、今の自分に必要な知識や技能、学習方法を考え、最良の選択ができる児童の育成を心掛ける。（個別最適な学び、学習手段を選ぶ力）
- ③ 教師の働き方改革と両立していくための視点も兼ねる。持続可能な少ない労力で最大限の成果を発揮していく。

- ・拡大文の掲示
- ・「言葉の広場」の掲示
- ・前時までの学習コーナー
- ・並行読書コーナー
- ・業前活動で音読タイムの設定
- ・教材研究の資料データの共有化

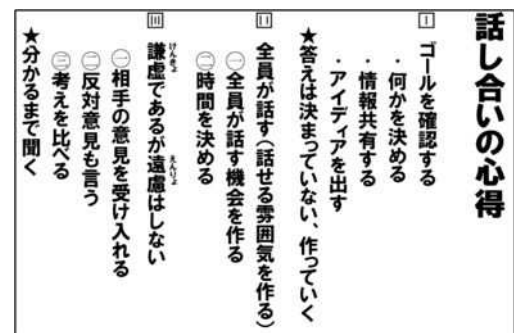


【前時までの学習コーナー】

(3) 研究部の活動

[授業研究部]

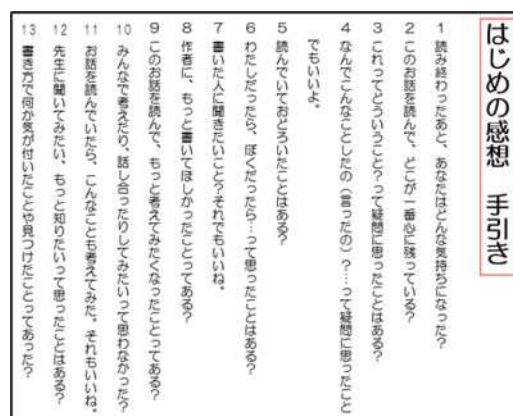
- ・学習マップづくり
「感想を書く→場面分け→課題設定」
- ・「話し合いの心得（話し合いの視点）」の作成
- ・発達段階に応じた話し合いのめあての提示
- ・話し合いに向けた、考えの視覚化
(心情メーター、人物相関図等)



【話し合いの心得（高学年）】

[学習環境部]

- ・「初発（はじめ）の感想の手引き」の作成
- ・音読タイムの充実
- ・昨年度作成した掲示物の活用
- ・アンケートの作成と集約



4 研究の成果（○）と課題（▲）

【初発（はじめ）の感想の手引き】

[成果]

- 単元のはじめに児童たちと一緒に学習課題を立てることで、見通しをもって毎時間の学習に取り組むことができていた。教師から与えられた課題ではなく、自分たちで考えた課題だったことで、主体的に学習に取り組める児童が多かった。
- 主人公の気持ちだけではなく、筆者の意図を考えるとという新たな視点をもつ児童もいた。
- 付箋に自分の考えを書く活動をするすることで、それに基づいて叙述を根拠にした広く深い話し合いができた。話し合いの時間を多く確保したり、話型に頼らない話し合いをしたりすることで、話し合う力がついた。
- 授業を離れても、「○○さんはどう？」と話を促したり、問いかけたりと他者の意見を求める姿勢を垣間見ることができた。話し合いのスタイルが確立できたことで、他教科でも生かすことができた。
- 掲示物を日常的に目にすることで、児童が気持ちを表す手立ての1つになった。また、前時の学習を掲示することで、授業の導入で今までの学習を振り返ることに役立った。
- 並行読書コーナーを設置することで、作者の他の作品に興味をもつ児童が増えた。

[課題]

- ▲児童の初発の読みが深い時はよいが、読みが浅いと課題を立てるのが難しいことがあったので、次年度は、1学期の文学的文章教材から初発の感想の手引きを活用し、課題設定の経験を多く積ませるようにする。
- ▲考えが広がりすぎたときに軌道修正したり、めあてに沿った話し合いができるように促したりするなど、授業者のファシリテーターとしての働きかけが必要なので、国語科だけでなく他教科でも話し合い活動を意識して授業に取り入れるようにする。
- ▲付箋やワークシートなど準備物が多いので、ICTを活用することで負担を減らすようにする。

研究主題

「GIGA スクール環境下における 川越市小・中学生学力向上プランを用いた授業改善」

川越市立川越西中学校

川越市立川越西小学校

川越市立霞ヶ関北小学校

研究のポイント

- 川越市小・中学生学力向上プランの基づく授業において、学習者用コンピュータを重点的に活用することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- 授業改善と並行し、学習者用コンピュータを活用した校務の効率化を図り、教職員の ICT 活用指導力を向上させる。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

川越市小・中学生学力向上プランは、令和2年度からの3年間で理解・共有、定着、深化のサイクルが1順したところである。令和5年度からの新たなサイクルを始めるに向けて、GIGA スクール環境下における川越市小・中学生学力向上プランを用いた授業改善を図り、市内小・中学校に周知する事例を開発することを目的として、本研究を実施する。具体的な実施内容として、以下の2点を重点とする。

① 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

川越授業スタンダードに基づき、協働学習や振り返りの場面で学習者用コンピュータを意図的・計画的に活用していくことで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

② 教職員の ICT 活用指導力の向上

会議資料等のデジタル化や各種調査のオンライン化を進め、学習者用コンピュータをの日常使いをしながら教職員の ICT 活用指導力を高める。

(2) 研究主題設定理由

児童生徒を取り巻く環境が大きく変わろうとしている。特に、「超スマート社会」とも言われる Society5.0 の未来に伴い創出されられると思われる新たなサービスやビジネスによって、児童生徒の将来の生活は劇的に便利で快適なものになっていくと考えられる。そのような環境の中で、学習者用コンピュータを用いた教育活動を十分にできていない現状が本校にある。そこで、教職員が学習者用コンピュータを普段使いしながら ICT 活用指導力を高め、日々の授業に生かせるようにしたい。また、協働学習や振り返りの場面で学

習者用コンピュータを重点的に活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、結果として、将来を担う児童生徒達の情報活用能力を高めていきたいと考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究組織

① 指定校

(研究内容)

- ・川越授業スタンダードを土台とし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた授業研究を実施
- ・学習者用コンピュータを活用した校務の効率化の実施

(対象校)

川越市立川越西中学校

川越市立川越西小学校

② 協力校

(研究内容)

- ・川越授業スタンダードを土台とし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現に向けた授業研究を実施

(対象校)

川越市立霞ヶ関北小学校

2 研究の内容

- (1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- (2) 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等
- (3) 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修

3 実践事例

- (1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

① 中学校 国語科「俳句を味わう」

学習内容「俳句を味わう」

ICT 活用の視点

- ・ Google フォームを用いて、学級で代表となる三句を選句する。
- ・ 選句された俳句が記載された Google スライド上において、情景を想像し、個人ごとに書き込む。
- ・ Google スライドのコメント機能を用いて互いに俳句や俳句の読み取りについて自身の考えを書く形で意見の交流を行う。

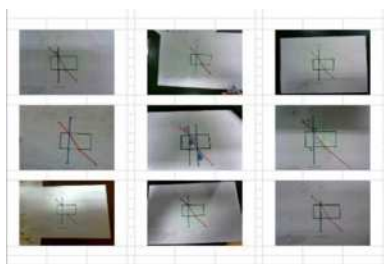


② 中学校 理科「光の屈折」

学習内容「光の屈折」

ICT 活用の視点

- ・観察した光の道筋をワークシートに書き入れ、カメラで撮影し、Google スプレッドシートに取り込む。
- ・結果のまとめを Google スプレッドシートで行う。(プルダウンを利用)
- ・Google スライドの共同編集を用いてまとめを行う。



班	項目	ななめ（空気→ガラス）			ななめ（ガラス→空気）		
		入射角【度】	屈折角【度】	角度はどちらが大きいか	入射角【度】	屈折角【度】	角度はどちらが大きいか
1	測定した	45	28	入射角	35	40	屈折角
2	測定した	45	30	入射角	35	40	屈折角
3	測定した	45	29	入射角	25	40	屈折角
4	測定した	45	32	入射角	35	40	屈折角
5	測定した	45	30	入射角	35	40	屈折角
6	測定した	45	30	入射角	35	40	屈折角
7	測定した	45	29	入射角	25	40	屈折角
8	測定した	45	30	入射角	35	40	屈折角
9	測定した	45	30	入射角	25	40	屈折角

③ 中学校 家庭科「目的に応じた衣服の選択」

学習内容「目的に応じた衣服の選択」

ICT 活用の視点

- ・事前学習として Google フォームで衣服に関するアンケートを行う。
- ・作成した Google スライドを用いて、自分が考えたコーディネート（ワークシートに色付け、カメラ機能を用いて撮影、取り込み）について発表を行う。助言を Google スライドのコメント機能を用いて行う。
- ・助言をもとに、Google スライドに変更点を書き入れる。



④ 中学校 特別活動

ICT 活用の視点

- ・Google スライドの共同編集を用いて、各学級の振り返りをまとめる。
- ・お互いの学級の振り返りを見合うことによって、自分のクラスの振り返りを推敲する。



⑤ 小学校 ワークシートのクラウド化による協働的な学びの加速

ICT 活用の視点

- ・学習活動で使用するワークシートを紙で作成するのではなく、できるところから児童の端末に配信できるようにデジタル化している。



⑥ 小学校 国語科「伝記を読んで自分の生き方を考えよう」

ICT 活用の視点

- ・スライドに個人で調べて偉人の伝記を記載し、学級全体で共有した。
- ・共有されたスライドを読み合い、互いにコメントを入れ合うことで、作品の完成度を高めた。



⑦ 小学校 総合的な学習の時間「見つけよう！お米のひみつ」

ICT 活用の視点

- ・効果的な発表に向けて、発表方法の改善を行うため工夫した点や課題となっている点をクラウド上で共有した。
- ・児童同士が互いの発表の工夫を読み合い、自らの発表方法を改善した。



(2) 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等

① 中学校 家庭学習の充実

ICT 活用の視点

- ・長期休業中の「日々の振り返り」を Google スプレッドシートで配布。家庭学習の時間を記録することにより、学習に対する自己調整力を培う。
- ・Google スライド等を用いた調べ学習で、家庭学習を行い、発表に向けた準備を行う。

② 小学校

ICT 活用の視点

- ・学習上のワークシートや成果物となるものを、クラウド対応のスライドやドキュメントなどでまとめるようにした。授業中に使用したワークシートを必要に応じて家庭でも取り組めるようにした。課題によっては、家庭で考えをまとめてきて授業で話し合う反転学習も行った。



③ 小学校 登校できない児童のためのオンライン活用

ICT 活用の視点

- ・様々な事情で登校できない児童もオンラインで学びに参加できるようにする。児童は教室の雰囲気を感じ、教師は必要な連絡を伝えることができる。



(3) 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修

① 各種資料、日報のデジタル化

ICT 活用の視点

- ・日報を Google スプレッドシートで作成する。デジタル端末が配布されていない職員もいるため、印刷した場合も見やすいレイアウトとした。
- ・職員会議を始めとした教員で共有すべき資料の配布を、Google Classroom のストリーム及び課題機能を用いて行った。

項目	開始時間	終了時間	備考
朝会	8:25	8:35	
朝礼	8:35	8:45	
第1時限	8:50	9:40	
第2時限	9:45	10:35	
第3時限	10:40	11:30	
第4時限	11:35	12:25	
昼休み	12:30	13:00	
第5時限	13:05	13:55	
第6時限	14:00	14:50	
第7時限	14:55	15:45	
第8時限	15:50	16:40	
下校	16:45		

② Google フォームを利用したアンケート調査の効率化

ICT 活用の視点

- ・行事の振り返りや教職員向け・生徒向け・保護者向けアンケートを Google フォームを用いて行う。集約は Google スプレッドシートへの出力機能を用いて行う。

③ Google スライドの共同編集による対話的・協働的な職員研修

ICT 活用の視点

- ・校内研修等での職員同士の協議を、ベテラン・中堅・若手を意図的に組み合わせたグループを作って行い、Google スライドの共同編集を通じて意見交流を深めていった。



④ 1日の流れを可視化し、学校内外で共有するための工夫

ICT 活用の視点

- ・紙の日報を学習者用コンピュータの標準ツールを用いてクラウド化した。日にちごとのタブで整理したスプレッドシートには連絡事項や補教の予定などが記され、カレンダーで予定と出張が一覧できるようにした。



⑤ 主体的に研修に参加し、協働的に学び合うための工夫

ICT 活用の視点

- ・職員研修では学習者用コンピュータを常に傍らに置いて実施した。クラウドサービスを活用して授業と同じように研修を進めたり、資料を共有して意見を共同編集したりして全員が一人一人関わる研修を実施した。



4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・学校生活の様々な場面で学習者用コンピュータの活用を通して、教職員の ICT 活用指導力を向上させ、授業改善を図ることができた。
- ・協働学習や振り返りの場面で学習者用コンピュータを重点的に活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的を図ることができた。
- ・学習者用コンピュータの活用によって、校務の効率化を図ることができた。
- ・授業をデザインする際に、学習者用コンピュータを使う・使わないを考えるのではなく、授業のめあてを達成するために学習者用コンピュータをどう使うと効果的かと考えることができるようになった。
- ・教員が日常的に学習者用コンピュータを活用することで、学習者用コンピュータを使うことに対しての抵抗感や苦手意識が低下した。
- ・学習者用コンピュータの使用頻度が増加することで、児童生徒の情報活用能力が向上し、使用にあたって必要な時間や指導が減り、めあてに向けて活動する時間の割合が増加した。

(2) 課題

- ・多くの授業で ICT を活用して授業改善を行ったが、学習者用コンピュータの活用に見られない場合もあると考えられた。授業のめあてをどのように達成させるかを検討した際に、効果的な学習者用コンピュータの活用とは何か、常に考え続ける必要がある。
- ・校務の効率化についてはデジタル化することが目的化しないように、デジタル化の効果を十分検証する必要がある。
- ・外部講師を招いての研修は、職員にとって大きな刺激となった。引き続き、外部講師の研修等を継続的に行い、よりよい ICT 活用について研究を進めていく必要がある。
- ・学習者用コンピュータの活用は、使用そのものが目的になってしまう場合があった。児童生徒の学びに視点をあて、児童生徒の情報活用能力をより高めるようにしていきたい。

川越市立教育センター

令和6年3月発行

〒350-0001

埼玉県川越市大字古谷上6083-10

TEL (049) 235-7591

FAX (049) 230-1023



川越市マスコットキャラクター
ときも